

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の設置									
フリ設置者	ガッコウホクシ ヲケウカク クエン学校法人 植草学									
フリガナ大学の名	ウケウカクケンサクガク 植草学園大学 (Uekusagakuen University)									
医学本部の位置	千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3									
大学の目的	植草学園大学は、我が国の伝統と文化に基づく徳育を教育の根幹とする学園建学の精神に則り、広く知識を授け、人格の陶冶を図るとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって我が国の文化の進展及び共生社会の実現に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。									
新設学部等の目的	植草学園大学看護学部は、植草学園の徳育を根幹とする学園建学の精神に則り、共生社会（インクルーシブ社会）の実現に看護学の立場から地域社会に貢献する人材となる看護師・保健師を育成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	看護学部 [Faculty of Nursing Science] 看護学科 [Department of Nursing Science] 計	4年	80人	年次一人	320人	学士（看護学） [Bachelor of Nursing Science]	保健衛生学関係（看護学関係）	令和7年4月第1年次	千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3 千葉県千葉市中央区椿森4丁目1番2号	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	発達教育学部発達支援教育学科〔定員減〕（△40）（令和7年4月）植草学園短期大学 こども未来学科（廃止）（△100） ※令和5年4月学生募集停止									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	看護学部 看護学科	講義	演習	実験・実習	計	128単位				
		71科目	39科目	19科目	129科目					
新設分	学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
			教授	准教授	講師	助教	計			
	看護学部 看護学科		8人 (8)	7人 (6)	6人 (5)	4人 (2)	25人 (21)	5人 (3)	77人 (42)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		8 (8)	7 (6)	6 (5)	4 (2)	25 (21)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位数以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）		8 (8)	7 (6)	6 (5)	4 (2)	25 (21)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位数以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位数以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		8 (8)	7 (6)	6 (5)	4 (2)	25 (21)				
計		8人 (8)	7人 (6)	6人 (5)	4人 (2)	25人 (21)	5 (3)			— (—)

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人

既	発達支援教育学部発達支援教育学科		12 (14)	3 (3)	5 (4)	0 (1)	20 (22)	0 (0)	44 (44)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の教 員 8 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		12 (14)	3 (3)	5 (4)	0 (1)	20 (22)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）		12 (14)	3 (3)	5 (4)	0 (1)	20 (22)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		12 (14)	3 (3)	5 (4)	0 (1)	20 (22)				
設	保健医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻		4 (4)	1 (1)	2 (2)	3 (3)	10 (10)	1 (1)	42 (42)	大学設置基準別 表第一に定め る基幹教員数の 四分の三の教 員 11 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		4 (4)	1 (1)	2 (2)	3 (3)	10 (10)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）		4 (4)	1 (1)	2 (2)	3 (3)	10 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		4 (4)	1 (1)	2 (2)	3 (3)	10 (10)				
分	保健医療学部リハビリテーション学科 作業療法専攻		3 (3)	1 (2)	3 (3)	2 (2)	9 (10)	0 (0)	53 (53)	大学設置基準別 表第一に定め る基幹教員数の 四分の三の教 員 11 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		3 (3)	1 (1)	3 (3)	2 (2)	9 (9)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)			
	小計（a～b）		3 (3)	1 (2)	3 (3)	2 (2)	9 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		3 (3)	1 (2)	3 (3)	2 (2)	9 (10)				
計		19 (21)	5 (6)	10 (9)	5 (6)	39 (42)	1 (1)	— (—)		
合 計		27 (29)	12 (12)	16 (14)	9 (8)	64 (63)	6 (4)	— (—)		
職 種		専 属		そ の 他		計				
事 務 職 員		25人 (25)		25人 (25)		50人 (50)				
技 術 職 員		1 (1)		0 (0)		1 (1)				
図 書 館 職 員		1 (1)		2 (2)		3 (3)				
そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
指 導 補 助 者		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計		27 (27)		27 (27)		54 (54)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		【千葉医療セン ター内椿森キャン パス】 借用期間20年 定期建物賃貸借 契約 借用地積 3,000㎡ 【千葉若葉キャン パス】 借用期間20年 土地借用面積 991㎡、		
	校 舎 敷 地	29,874.00㎡	13,065.00㎡	0㎡		42,939.00㎡				
	そ の 他	29,951.00㎡	0㎡	0㎡		29,951.00㎡				
	合 計	59,825.00㎡	13,065.00㎡	0㎡		72,890.00㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
		22,966.93㎡ (18,716.72㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		22,966.93㎡ (18,716.72㎡)				

教室・教員研究室		教室		82室		教員研究室		31室		大学全体	
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕冊		電子図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕種		機械・器具 点	標本 点
	看護学部	71,926 [1,670] (71,326 [1,670])		50 [0] (50 [0])		95 [7] (95 [7])		3 [1] (3 [1])		2,669 (1,397)	53 (53)
	計	71,926 [1,670] (71,326 [1,670])		50 [0] (50 [0])		95 [7] (95 [7])		3 [1] (3 [1])		2,669 (1,397)	53 (53)
スポーツ施設等		スポーツ施設			講堂			厚生補導施設			大学全体
		5,693.00㎡			0㎡			1,435.93㎡			
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。		
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	—	—			
	共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—	—			
	図書購入費	2,126千円	3,337千円	3,618千円	4,169千円	3,048千円	—	—			
	設備購入費	71,976千円	131,908千円	0千円	0千円	0千円	—	—			
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
			1,808千円	1,655千円	1,655千円	1,655千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金、学園全体の資金運用収入及び事業収入、雑収入等									
既設大学等の状況	大学等の名称	植草学園大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地		
	発達教育学部 発達支援教育学科	4年	140人	—	560人	学士(教育学)	0.64	平成20年度	千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3		
	保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	4年	40人	—	160人	学士(理学療法)	0.96	令和2年度	千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3		
		4年	40人	—	160人	学士(作業療法)	0.61	令和2年度			
	大学等の名称	植草学園短期大学									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地			
こども未来学科	2年	—	—	—	短期大学士(幼児福祉学)	—	平成11年度	千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3			
附属施設の概要		<p>1. 名称：植草学園大学附属弁天こども園 目的：植草学園大学における幼児の教育又は保育に関する研究に協力し、かつ、植草学園大学の計画に従い学生の教育実習を行う。 所在地：千葉県千葉市中央区弁天2丁目7番1号 設置年月：平成28年4月 規模等：1,457.20㎡(建物)</p> <p>2. 名称：植草学園大学附属美浜幼稚園 目的：植草学園大学における幼児の教育又は保育に関する研究に協力し、かつ、植草学園大学の計画に従い学生の教育実習を行う。 所在地：千葉県千葉市美浜区高洲1丁目17番8号 設置年月：平成20年4月 規模等：1,260.46㎡(建物)</p> <p>3. 名称：植草学園大学・植草学園短期大学子育て支援・教育実践センター(こいっくおぐ・こいっくべん) 目的：地域の児童・幼児、障害等のある子どものための保育・教育機関。植草学園大学における幼児の教育又は保育に関する研究に協力。 所在地：こいっくおぐ 千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3 こいっくべん 千葉県千葉市中央区弁天2丁目7番1号 設置年月：こいっくおぐ 平成22年4月(平成27年5月に名称変更) こいっくべん 平成27年5月 規模等：こいっくおぐ 252.00㎡(建物) こいっくべん 206.01㎡(建物)</p> <p>4. 名称：植草学園大学・植草学園短期大学教職・公務員支援センター 目的：小学校、特別支援学校、公立幼稚園・保育所・認定こども園の教員・保育士を目指す学生のキャリア支援や学修サポートを行う。 植草学園大学における生徒・幼児の教育又は保育に関する研究に協力。 所在地：千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3 設置年月：令和2年4月 規模等：144.00㎡(建物)</p> <p>5. 名称：植草学園大学・植草学園短期大学特別支援教育研究センター 目的：特別支援教育・障害分野への専門性の高い人材育成の発展を目指し、特別支援・障害支援に貢献する研究・実践を推進するとともに、関連事業を展開。 植草学園大学における生徒の教育に関する研究に協力。 所在地：千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3 設置年月：平成26年4月 規模等：25.60㎡(建物)</p>									

教育課程等の概要																
(看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員 (助手を除く)
基礎科目	人間と道徳	1前		2			○								1	
	哲学入門	1・2後			2		○								1	隔年
	倫理学入門	1・2後			2		○								1	隔年
	心理学	1・2前		2			○								1	
	教育学入門	1・2前			2		○								1	
	文学の世界	1・2前			2		○								1	
	音楽の世界	1・2後			2		○								1	
	歴史学	1・2後			2		○								1	隔年
	行動科学入門	1・2後			2		○								4	オムニバス・共同（一部）
	法学入門	1・2前			2		○								1	隔年
	日本国憲法	1・2前			2		○								1	
	経済学入門	1・2前			2		○								1	
	社会学入門	1・2前		2			○								1	
	ベーシックサイエンス	1・2前			2		○								1	
	バイオリテラシー入門	1・2前			2		○								1	
	統計学入門	1・2前			2		○			1						
	データサイエンス入門	1後		2			○								1	
	人間関係論	1・2前			2		○								1	
	国際理解	1・2前			2		○								1	
	コミュニケーション論	1・2後		2			○								1	
	環境科学	1・2後			2		○								1	
	自信を高める心理学	1・2前			2		○								1	
	障害インクルージョン論	1・2後		2			○								1	
	バラスポーツ指導概論	1・2前			2		○								2	オムニバス
基礎科目 小計 (24科目)	—	—	—	12	36	0	—	—	—	1	0	0	0	0	20	—
体育・スポーツ科目	スポーツ健康科学基礎理論	1後			1		○								1	
	体育実技A	1・2前			1				○						3	オムニバス・共同（一部）
	体育実技B	1・2前			1				○						3	オムニバス・共同（一部）
	体育実技C	1・2後			1				○						2	オムニバス・共同（一部）
	体育実技D	1・2後			1				○						2	オムニバス・共同（一部）
	体育・スポーツ科目 小計 (5科目)	—	—	—	0	5	0	—	—	—	0	0	0	0	0	5
国際コミュニケーション科目	英語 I	1前		2					○						3	
	英語 II	1後		2					○						3	
	英会話	1・2前・後			2				○						1	
	キャリアアップ英語	1・2後			2				○						1	
	中国語入門	1・2前			2				○						1	
	フランス語入門	1・2前			2				○						1	
	ドイツ語入門	1・2後			2				○						1	
国際コミュニケーション科目 小計 (7科目)	—	—	—	4	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	7	—
基礎演習科目	情報機器演習	1・2前		2					○						1	
	文章表現演習	1後			2				○						2	
	読書技術演習	1・2前			2				○						1	
	自然科学基礎演習	1前			2				○						3	オムニバス
	海外研修 I	1・2・3・4			1				○						2	
	海外研修 II	1・2・3・4			1				○						2	
	基礎演習科目 小計 (6科目)	—	—	—	2	8	0	—	—	—	0	0	0	0	7	—
教養教育科目 小計 (42科目)	—	—	—	18	59	0	—	—	—	1	0	0	0	0	34	—

専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前		2			○							1	
	人体の構造と機能Ⅱ	1前		2			○							1	
	人体の構造と機能 演習	1後		1				○			1	1	1	1	共同 ※講義
	薬理学	1後		2			○							5	オムニバス
	生化学・栄養学	1前		2			○							1	
	運動学	3前			1		○							1	
	ゲノム・遺伝学	4前			1		○							2	オムニバス
	感染と防御	2前		2			○							1	
	病態学	1後		2			○							1	
	疾病と治療Ⅰ（内科系疾患）	2前		1			○							8	オムニバス
	疾病と治療Ⅱ（外科系疾患）	2前		1			○							8	オムニバス
	疾病と治療Ⅲ（小児の疾患・感染症）	2前		1			○							3	オムニバス
	疾病と治療Ⅳ（高齢者の疾患・精神疾患）	2前		1			○							2	オムニバス
	保健医療統計学	2前	○	1			○			1					
	保健医療情報学	2前	○	1			○			1					
	公衆衛生学・疫学	2後	○	1			○			1					
	疫学演習	3前	○	1			○			1	1				共同
	保健医療福祉制度論	2前	○	2			○			1				1	オムニバス
	地域資源とマネジメント	2後	○	1			○			1	1	1			オムニバス・共同（一部）※演習
	医療経済学	4前			1		○			1					
	家族社会論	1前	○	1			○			2		2			オムニバス
	専門職連携論	2後	○	1			○				3			4	オムニバス・共同 ※演習
専門基礎科目 小計（22科目）	—	—	26	3	0	—	—	—	5	4	3	1	1	38	—
専門教育科目	エレメンタリーセミナー	1前	○	1			○		5	4	2				オムニバス・共同（一部）※講義
	看護学原論Ⅰ	1前	○	2			○			1	1	1	1		共同 ※演習
	看護学原論Ⅱ	1後	○	2			○			1	1	1	1		共同 ※演習
	看護基本技術Ⅰ	1前	○	1			○			1	1	1	1		共同 ※講義
	看護基本技術Ⅱ	1前	○	1			○			1	1	1	1		共同 ※講義
	看護基本技術Ⅲ	1後	○	1			○			1	1	1	1		共同 ※講義
	看護基本技術Ⅳ	2前	○	1			○			1	1	1	1		共同 ※講義
	看護基本技術Ⅴ	2後	○	1			○			1	1	1	1		共同 ※講義
	看護倫理	2前	○	1			○			1					
	地域包括ケア論	2前	○	1			○			2	3	2			オムニバス ※演習
	急性期看護学概論	2前	○	1			○			1	1	2			オムニバス
	慢性期看護学概論	2前	○	1			○			1	1	1			オムニバス
	成人（急性・慢性）看護方法Ⅰ	2後	○	1			○			1	1	2			オムニバス・共同（一部）※講義
	成人（急性・慢性）看護方法Ⅱ	3前	○	1			○			1	1	2			共同
	ヘルスプロモーション	1後	○	1			○			1					
	エンドオブライフケア	2後	○	1			○			1					
	成人看護学概論	1後	○	1			○			1	1				オムニバス
	老年看護学概論	2前	○	2			○			1		1			共同（一部）
	老年看護方法Ⅰ	2後	○	1			○			1		1			共同
	老年看護方法Ⅱ	3前	○	1			○			1		1		1	共同
	母性看護学概論	2前	○	2			○			1	1			1	オムニバス
	母性看護方法Ⅰ	2後	○	1			○			1	1		1		オムニバス
	母性看護方法Ⅱ	3前	○	1			○			1	1		1		共同
	小児看護学概論	2前	○	2			○			1	1				オムニバス
	小児看護方法Ⅰ	2後	○	1			○			1	1		1		オムニバス・共同（一部）※講義
	小児看護方法Ⅱ	3前	○	1			○			1	1		1		共同 ※講義
精神保健看護学概論	2前	○	2			○			1		1			オムニバス・共同（一部）	
精神保健看護方法Ⅰ	2後	○	1			○			1		1			オムニバス・共同（一部）※講義	
精神保健看護方法Ⅱ	3前	○	1			○			1		1		1	共同 ※講義	

専門教育科目	地域・在宅看護学概論	1後	○	2		○		1	1		1		オムニバス・共同（一部）※演習
	地域・在宅看護方法Ⅰ	2後	○	1			○	1	1		1		オムニバス・共同（一部）※講義
	地域・在宅看護方法Ⅱ	3前	○	1			○	1	1		1		オムニバス・共同（一部）※講義
	公衆衛生看護学概論	2後	○	2			○	1	1	1			オムニバス・共同（一部）
	公衆衛生看護方法論Ⅰ（行政看護）	3前	○		2		○	1	1	1			1
	公衆衛生看護方法論Ⅱ（学校看護）	3前			1		○						1
	公衆衛生看護方法論Ⅲ（産業看護）	3前	○		2			○	1	1	1		1
	公衆衛生看護管理論	4前	○		1		○		1	1	1		共同
	地区活動論	3前	○		2		○		1	1	1		オムニバス・共同（一部）
	健康教育論	2後	○		1		○		1	1	1		共同
	地域共創ケアⅢ	3前	○		1			○		4	1	2	オムニバス・共同（一部）※演習
	看護学セミナー	3前	○		1			○	8	7	3		共同
	看護管理・看護政策論	4前	○		1		○		1				1
	災害看護学概論	2前	○		1		○		1	2	1		1
	災害看護学演習	4前			1			○	1	2	1		1
	グローバルヘルス看護学Ⅰ	2後	○		1		○		1	1			共同
	グローバルヘルス看護学Ⅱ	4前			1			○	1				1
	看護学研究Ⅰ	1後	○		1		○		1	1	1		オムニバス
	看護学研究Ⅱ	3後	○		1		○		8	7	6		オムニバス・共同（一部）※演習
	看護学研究Ⅲ（卒業研究）	4通	○		2			○	8	7	6		共同
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	○		1			○		2	2	1	3
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	○		2			○		2	2	1	3
	地域共創ケアⅠ	1後	○		1			○	3	1			共同
	地域共創ケアⅡ	2後	○		1			○	2	2			共同
	地域・在宅看護学実習	3後	○		2			○	1	1		1	共同
	成人急性期看護学実習	3後	○		3			○	1	1	2		1
	成人慢性期看護学実習	3後	○		2			○	1	1	2		1
	老年看護学実習	3後	○		2			○	1		1		1
	母性看護学実習	3後	○		2			○	1	1		1	共同
	小児看護学実習	3後	○		2			○	1	1		1	共同
	精神保健看護学実習	3後	○		2			○	1		1		1
公衆衛生看護学実習	3後	○		2			○	1	1	1		共同	
公衆衛生看護展開実習	4前	○		1			○	1	1	1		共同	
公衆衛生看護管理実習	4前	○		3			○	1	1	1		共同	
統合看護実習	4前	○		3			○	6	5	5	4	共同	
専門科目 小計（65科目）	—	—		74	17	0	—	8	7	6	4	5	6
専門教育科目 小計（87科目）	—	—		100	20	0	—	8	7	6	4	5	44
合計（129科目）	—	—		118	79	0	—	8	7	6	4	5	77
学位又は称号	学士（看護学）					学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）				
卒業要件及び履修方法								授業期間等					
必修科目118単位、教養教育科目の基礎科目の選択科目から2単位、体育・スポーツ科目の選択科目から2単位、国際コミュニケーション科目の選択科目から2単位、基礎演習科目の選択科目から2単位、専門教育科目の専門基礎科目の選択科目から1単位、専門科目の選択科目から1単位以上を修得し、128単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））								1学年の学期区分			2期		
								1学期の授業期間			15週		
								1時限の授業の標準時間			90分		

教育課程等の概要																
(看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く教員
専門基礎科目	薬理学	1後		2			○							5	オムニバス	
	疾病と治療Ⅰ（内科系疾患）	2前		1			○							8	オムニバス	
	疾病と治療Ⅱ（外科系疾患）	2前		1			○							8	オムニバス	
	疾病と治療Ⅲ（小児の疾患・感染症）	2前		1			○							3	オムニバス	
	疾病と治療Ⅳ（高齢者の疾患・精神疾患）	2前		1			○							2	オムニバス	
	疾病）家族社会論	1前		1			○			2		2			オムニバス	
専門基礎科目 小計（6科目）		—	—	7	0	0	—	—	2	0	2	0	0	26	—	
専門教育科目	看護学原論Ⅰ	1前	○	2			○				1	1	1	1	共同 ※演習	
	看護学原論Ⅱ	1後	○	2			○				1	1	1	1	共同 ※演習	
	看護基本技術Ⅰ	1前	○	1				○			1	1	1	1	共同 ※講義	
	看護基本技術Ⅱ	1前	○	1				○			1	1	1	1	共同 ※講義	
	看護基本技術Ⅲ	1後	○	1				○			1	1	1	1	共同 ※講義	
	看護基本技術Ⅳ	2前	○	1				○			1	1	1	1	共同 ※講義	
	看護基本技術Ⅴ	2後	○	1				○			1	1	1	1	共同 ※講義	
	成人（急性・慢性）看護方法Ⅰ	2後	○	1					○		1	1	2		オムニバス・共同 ※講義	
	成人（急性・慢性）看護方法Ⅱ	3前	○	1					○		1	1	2		共同共同	
	老年看護方法Ⅱ	3前	○	1					○		1		1	1	共同	
	母性看護学概論	2前	○	2				○			1	1			1	オムニバス
	母性看護方法Ⅰ	2後	○	1					○		1	1		1		オムニバス
	母性看護方法Ⅱ	3前	○	1					○		1	1		1		共同
	小児看護学概論	2前	○	2				○			1	1				オムニバス
	小児看護方法Ⅰ	2後	○	1					○		1	1		1		オムニバス・共同 ※講義
	小児看護方法Ⅱ	3前	○	1					○		1	1		1		共同 ※講義
	精神保健看護方法Ⅱ	3前	○	1					○		1		1	1		義共同 ※講義
	地域・在宅看護学概論	1後	○	2				○			1	1		1		ニバス・共同 ※演習
	地域・在宅看護方法Ⅱ	3前	○	1					○		1	1		1		オムニバス・共同 ※講義
	公衆衛生看護方法論Ⅰ（行政看護）	3前	○		2			○			1	1	1			オムニバス
	地区活動論	3前	○		2			○			1	1	1			共同
	災害看護学演習	4前			1				○		1	2	1		1	共同
	看護学研究Ⅰ	1後	○	1				○			1	1	1			オムニバス
	看護学研究Ⅱ	3後	○	1				○			8	7	6			オムニバス・共同 ※演習
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	○	1					○			2	2	1	3	共同共同
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	○	2					○			2	2	1	3	共同共同
	地域共創ケアⅠ	1後	○	1					○		3	1				共同共同
	地域共創ケアⅡ	2後	○	1					○		2	2				共同共同
	地域・在宅看護学実習成人急性期看護学	3後	○	2					○		1	1		1		共同共同
	実習成人慢性期看護学	3後	○	3					○		1	1	2		1	共同共同
	学実習老年看護学実習	3後	○	2					○		1	1	1		1	共同共同
	母性看護学実習	3後	○	2					○		1	1		1		共同共同
	小児看護学実習	3後	○	2					○		1	1		1		共同共同
	精神保健看護学実習公衆衛生看護学実習公衆衛生看護展開実習公衆衛生看護管理実習統合看護実習	3後	○	2					○		1		1		1	共同共同
	公衆衛生看護学実習公衆衛生看護展開実習公衆衛生看護管理実習統合看護実習	3後	○		2				○		1	1	1		1	共同共同
	衛生看護展開実習公衆衛生看護管理実習統合看護実習	4前	○		1				○		1	1	1			共同共同
	衛生看護管理実習統合看護実習	4前	○		3				○		1	1	1			共同共同
	看護実習	4前	○		3				○		6	5	5	4		共同共同
	専門科目 小計（39科目）		—	—	49	11	0	—	—	—	8	7	6	4	5	2
専門教育科目 小計（45科目）		—	—	56	11	0	—	—	—	8	7	6	4	5	28	—
合計（45科目）		—	—	56	11	0	—	—	—	8	7	6	4	5	28	—

【千葉医療センター内椿森キャンパス】

学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
必修科目118単位，教養教育科目の基礎科目の選択科目から2単位，体育・スポーツ科目の選択科目から2単位，国際コミュニケーション科目の選択科目から2単位，基礎演習科目の選択科目から2単位，専門教育科目の専門基礎科目の選択科目から1単位，専門科目の選択科目から1単位以上を修得し，128単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））			1 学年の学期区分	2 期
			1 学期の授業期間	1 5 週
			1 時限の授業の標準時間	9 0 分

教育課程等の概要																
(看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員
教養教育科目	人間と道徳	1前		2			○							1		
	哲学入門	1・2後			2		○							1	隔年	
	倫理学入門	1・2後			2		○							1	隔年	
	心理学	1・2前		2			○							1		
	教育学入門	1・2前			2		○							1		
	文学の世界	1・2前			2		○							1		
	音楽の世界	1・2後			2		○							1		
	歴史学	1・2後			2		○							1	隔年	
	行動科学入門	1・2後			2		○							4	オムニバス・共同 (一部)	
	法学入門	1・2前			2		○							1	隔年	
	日本国憲法	1・2前			2		○							1		
	経済学入門	1・2前			2		○							1		
	社会学入門	1・2前		2			○							1		
	ベーシックサイエンス	1・2前			2		○							1		
	バイオリテラシー入門	1・2前			2		○							1		
	統計学入門	1・2前			2		○			1				1		
	データサイエンス入門	1後		2			○							1		
	人間関係論	1・2前			2		○							1		
	国際理解	1・2前			2		○							1		
	コミュニケーション論	1・2後		2			○							1		
	環境科学	1・2後			2		○							1		
	自信を高める心理学	1・2前			2		○							1		
	障害インクルージョン論	1・2後		2			○							1		
	パラスポーツ指導概論	1・2前			2		○							2	オムニバス	
基礎科目 小計 (24科目)	—	—	—	12	36	0	—	—	—	1	0	0	0	0	20	—
体育・スポーツ科目	スポーツ健康科学基礎理論	1後			1		○							1		
	体育実技A	1・2前			1									3	オムニバス・共同 (一部)	
	体育実技B	1・2前			1									3	オムニバス・共同 (一部)	
	体育実技C	1・2後			1									2	オムニバス・共同 (一部)	
	体育実技D	1・2後			1									2	オムニバス・共同 (一部)	
体育・スポーツ科目 小計 (5科目)	—	—	—	0	5	0	—	—	—	0	0	0	0	0	5	—
国際コミュニケーション科目	英語 I	1前		2				○						3		
	英語 II	1後		2				○						3		
	英会話	1・2前・後			2			○						1		
	キャリアアップ英語	1・2後			2			○						1		
	中国語入門	1・2前			2			○						1		
	フランス語入門	1・2前			2			○						1		
	ドイツ語入門	1・2後			2			○						1		
国際コミュニケーション科目 小計 (7科目)	—	—	—	4	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	7	—
基礎演習科目	情報機器演習	1・2前		2				○						1		
	文章表現演習	1後			2			○						2		
	読書技術演習	1・2前			2			○						1		
	自然科学基礎演習	1前			2			○						3	オムニバス	
	海外研修 I	1・2・3・4			1			○						2		
	海外研修 II	1・2・3・4			1			○						2		
基礎演習科目 小計 (6科目)	—	—	—	2	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	6	—
教養教育科目 小計 (42科目)	—	—	—	18	59	0	—	—	—	1	0	0	0	0	34	—

専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前		2			○								1	共同 ※講義
	人体の構造と機能Ⅱ	1前		2			○								1	
	人体の構造と機能 演習	1後		1				○		1	1	1	1			
	生化学・栄養学	1前		2			○								1	
	運動学	3前			1		○								1	
	ゲノム・遺伝学	4前			1		○								2	
	感染と防御	2前		2			○								1	
	病態学	1後		2			○								1	
	保健医療統計学	2前	○	1			○			1						
	保健医療情報学	2前	○	1			○			1						
	公衆衛生学・疫学	2後	○	1			○			1						
	疫学演習	3前	○	1				○		1	1					
	保健医療福祉制度論	2前	○	2			○			1					1	
	地域資源とマネジメント	2後	○	1			○			1	1	1				
医療経済学	4前			1		○			1							
専門職連携論	2後	○	1			○				3				4		
専門基礎科目 小計 (16科目)	—	—	19	3	0	—	—	—	3	4	2	1	1	12	※演習—	
専門教育科目	エレメンタリーセミナー	1前	○	1			○		5	4	2					オムニバス・共同 ※講義
	看護倫理	2前	○	1			○		1							オムニバス ※演習
	地域包括ケア論	2前	○	1			○		2	3	2					オムニバス ※演習
	急性期看護学概論	2前	○	1			○		1	1	2					オムニバス
	慢性期看護学概論	2前	○	1			○		1	1	1					オムニバス
	ヘルスプロモーション	1後	○	1			○		1							
	エンドオブライフケア	2後	○	1			○		1							
	成人看護学概論	1後	○	1			○		1	1						オムニバス
	老年看護学概論	2前	○	2			○		1		1					共同 (一部)
	老年看護方法Ⅰ	2後	○	1				○	1		1					共同
	精神保健看護学概論	2前	○	2			○		1		1					オムニバス・共同
	精神保健看護方法Ⅰ	2後	○	1				○	1		1					ボイ部)バス・共同 ※講義
	地域・在宅看護方法Ⅰ	2後	○	1			○		1	1		1				オムニバス・共同 ※講義
	公衆衛生看護学概論	2後	○	2			○		1	1	1					オムニバス・共同 (一部)
	公衆衛生看護方法論Ⅱ (学校看護)	3前			1		○								1	
	公衆衛生看護方法論Ⅲ (産業看護)	3前			1		○								1	
	公衆衛生看護学演習	3前	○	2				○	1	1	1					共同
	公衆衛生看護管理論	4前	○	1			○		1	1	1					オムニバス・共同 ※演習
	健康教育論	2後	○	1			○		1	1	1					ボイ部)バス・共同 ※演習
	地域共創ケアⅢ	3前	○	1				○		4	1	2				共同
看護学セミナー	3前	○	1				○	8	7	3				1	オムニバス・共同 ※講義	
看護管理・看護政策論	4前	○	1			○		1						1	オムニバス ※演習	
災害看護学概論	2前	○	1			○		1	2	1				1	オムニバス・共同	
グローバルヘルス看護学Ⅰ	2後	○	1			○		1	1						ボイ部)バス	
グローバルヘルス看護学Ⅱ	4前			1			○	1							※講義	
看護学研究Ⅲ (卒業研究)	4通	○	2				○	8	7	6					共同	
専門科目 小計 (26科目)	—	—	25	6	0	—	—	8	7	6	2	0	5	—	—	
専門教育科目 小計 (42科目)	—	—	44	9	0	—	—	8	7	6	3	1	17	—	—	
合計 (84科目)	—	—	62	68	0	—	—	8	7	6	3	1	50	—	—	
学位又は称号	学士 (看護学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係 (看護学関係)								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目118単位、教養教育科目の基礎科目の選択科目から2単位、体育・スポーツ科目の選択科目から2単位、国際コミュニケーション科目の選択科目から2単位、基礎演習科目の選択科目から2単位、専門教育科目の専門基礎科目の選択科目から1単位、専門科目の選択科目から1単位以上を修得し、128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：48単位 (年間))								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業の標準時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目 基礎科目	人間と道徳		徳育を教育の根幹とする学園建学の精神を学ぶとともに、日本や世界の思想、文化に触れ、人間としての在り方を考える。生命倫理について、多面的・多角的に捉え人間の尊厳について考えるなど、様々な道徳性について考え議論することにより、人間理解、価値理解、自己理解を深め、自己の道徳性を向上させることを目的とする。また、国際社会に生きる日本人として、自己実現に向けて力強く行動できるような自身の在り方、生き方を考えられるよう展開していく。	
	哲学入門		哲学史に名を残してきた様々な哲学者の思考を追思することにより、自己を取りまく人間、世界、自然などについてより深く思考すること、それによって自己自身を知ることが目的とする。授業では、哲学という学問の基礎である「考えるということ」を考えるために、西洋の哲学思想を古代から現代にわたって概観する。哲学史的知識の教授に留まらず、抽象的な思考が私たちの生活にどのように関係するのか、受講者との対話を適宜行いながら実践的な授業を進めていく。	隔年
	倫理学入門		「正しさ」や善悪の基準が混沌とする現代において、倫理的諸問題に主体的に取り組む上での知識の習得と、意見を他者と交換する経験を持つこと、また、異なる意見を持つ立場とコミュニケーションを取る方法を身につけることを目的とする。道徳や徳目の教授ではなく、現実の倫理的課題を題材にして、その倫理的意義を検討する形で授業を進めてゆく。古代から近現代までの代表的な倫理思想を概説しながら、私たちの人生に起こる具体的な倫理的問題を適宜議論の対象として扱い、倫理そのものに対する意識を深めながら授業を展開していく。	隔年
	心理学		複雑で、時には不可解な人間の行動を理解するために、現代の心理学研究の成果を活用する。様々な具体的なエピソードの分析をキッカケとして、認知（知覚、記憶、推理等）、パーソナリティ（情緒、性格、適応行動）、社会（社会的認知、対人行動、集団力動）など基本的概念や原理、現実への対応についての理解を深める。講義が中心であるが、その他に、ロールプレイや回想、討論などを用いて、多面的で能動的な人間の心や行動の理解を進める。	
	教育学入門		「ヒトは教育によって人間になる」といわれるが、本講義では、人間の発達・成長に必要なものとして教育をとらえた上で、学校教育のみに限定することなく、幅広い視点から教育について概説する。授業計画：1) 教育の場としての家庭・学校・幼稚園・地域社会における教育的・社会的機能 2) 現代日本の教育の現状と教育問題の諸相などをとりあげ、教育に対する広範な関心を高めたい。受講者との双方向の授業展開になるよう配慮し、授業カードなどを有効活用する。	
	文学の世界		文学とは何かについて述べた後、前半は日本文学、後半は外国文学を中心に講義する。前半は、上代からの日本文学の歩みを概観し、近代（明治、大正）の文学および現代の文学について主要作家と潮流を中心に学んでゆく。後半の外国文学は、古代、中世、近代の文学の歴史を解説し、世界の主要文学である英・仏・独・米・露・中国等の文学を概観し、それらの主要作家たちの文学を中心に考察してゆく。文学がそれぞれの国や時代に人間をいかに表現してきたかを検討、文学についての知識と人間理解を深めるよう努める。	
	音楽の世界		プラトンは『国家』で音楽の重要性を説き、その教育的価値を論じたが、古代ギリシャ時代に音楽は社会教育の一環として体系化されていた。豊かな感性と情操を持った人間性を育む上で、音楽がいかに重要な役割を果たすと考えられていたかを西洋音楽史を通して考察し、明治期の洋楽移入の状況や明治以来の唱歌についても検討する。内容 1) 古代・中世の音楽の役割 2) キリスト教と音楽 3) 16世紀以降のオスペダレー（孤児院）の音楽教育 4) ルソーの音楽の考え方 5) 近代の音楽教育 6) 明治の洋楽移入	
	歴史学		歴史的な事実が、我々の日常生活に大きなかわりを持っていることを理解する。ヨーロッパの成立について、共和制時代、帝政前期の五賢帝時代、キリスト教の成立と公認、ゲルマン民族の大移動、帝政後期の西ローマ帝国の滅亡まで、教養としてローマ史の知識を修得し、ヨーロッパの成立について理解していく。	隔年

教養教育科目 基礎科目	行動科学入門	<p>人間や動物の行動に関する科学的な研究の手法や成果について理解するため、認知、対人関係、社会、健康といったテーマに関する行動の基礎的知識を学ぶ。また、実証的な行動科学について学ぶ際にはその方法論の理解が必要不可欠である。それぞれの研究領域で用いられる方法論や主要なテーマなどについての講述を行い、行動科学全般に関する理解を深めることを目的とする。行動に関わる意思決定過程や行動の生起・変容に関わる理論やメカニズムについても理解し、日常生活や社会的出来事に見られる様々な行動について、行動科学の視点から議論できるようにすることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全13回 共同2回)</p> <p>(39 足立 英彦／4回) 健康：感情のコントロールと精神的健康、精神疾患と行動上の問題、行動科学的アプローチによる治療、精神的健康増進に役立つ行動変容</p> <p>(40 金子 功一／3回) 対人・社会：対人関係（印象形成と対人魅力）、対人行動（同調と内集団ひいき、リーダーシップ）、集団と組織（集団の凝集性と組織規範）</p> <p>(45 北田 沙也加／3回) 行動のしくみ：行動の生物科学的入門、行動の動機づけと学習、進化心理学（子育ての視点から）</p> <p>(26 中澤 潤／3回) 認知：社会的情報処理と適応（対人行動と認知過程）、マンガの認知科学（マンガの読みと理解の認知過程）、行動の自己制御（実行機能と非認知能力）</p> <p>(39 足立 英彦・40 金子 功一・45 北田 沙也加・26 中澤 潤／2回)（共同） ガイダンス、まとめ</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	法学入門	<p>憲法の意義とその特徴を知る他、民事法、刑事法、行政法の三法に分類し、領域ごとの特性に触れる。各領域の中から主な法律について、内容を理解させる。また、法律が社会や日常生活において身近な問題であることを知り、その上で基礎的な法の理念、法の目的や特徴、法の分類、法の具体的な適用と解釈、法の効力などを学ぶ。法律を学ぶことが、幸福や権利を科学的に見出す手段となることについても触れていきたい。</p>	隔年
	日本国憲法	<p>憲法の理念や歴史をふまえて、国民主権という考え方、基本的人権や平和主義についての意味や内容など、憲法の概要について基礎的な内容が理解できるようにしていく。また、具体的に身近な事例を扱いながら憲法の発展的課題についても触れ、考察することで今後の展開に自らの考えをもつことができるようにする。</p>	
	経済学入門	<p>経済の基本となる仕組み、具体的には、①経済と三つの経済主体、②GDPと経済成長率、③市場メカニズム、④インフレとデフレ、⑤金融市場と外国為替市場、⑥政府と日本銀行の役割について講義する。次にマクロ経済学の基本的なモデルを紹介・講義し、現代経済学の初歩的な手引きを与える。本講義の教育目標は、新聞やテレビニュースなどで報道されている現在の日本の経済問題を理解でき、そのような日々の経済の動きを自己の生活と結びつけて考えられるようになるレベルに到達することである。</p>	
	社会学入門	<p>本授業では、社会学の基本的な概念や分析枠組を、都市化社会、消費社会、情報社会、労働、医療などの幅広いテーマに即して講義する。具体的には、①行為・相互作用・集団、②アイデンティティと消費、③コミュニケーションとメディア、④医療と社会の関係などについて論じる。この講義を通じて、自己や他者、それをとりまく人間関係や組織・制度を、「近代/社会とはなにか？」という社会学の根本問題を軸にしながら、適切な概念や枠組を用いて観察し、思考する態度を養う。</p>	
	ベーシックサイエンス	<p>本授業では、サイエンス（物理学・化学）についての幅広いテーマを扱った講義を通して、以下の1～3を身に付けることを目的に学習活動を行っていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身近なサイエンスに対する関心や探求心を高め、基礎的な知識を使って現象を理解する。 2. サイエンスの知識と技能を社会生活で応用し、柔軟な思考や発想ができるようにする。 3. 社会生活におけるサイエンスの果たす役割を認識し、これからの科学や技術の在り方について考えたり、探究したりする力を養う。 	
	バイオリテラシー入門	<p>専門科目の履修に必要な基礎知識について理解を深める。分子遺伝学について理解し、遺伝子診断、遺伝子治療、遺伝子組換え、クローン生物の技術を理解する。感染と感染生物の知識を深め、感染防御について理解を深める。生物とその諸機能や諸現象に興味と不思議さを感じ、その本質を追究する素養を培う。個体レベルから細胞レベルの生物の動的側面の理解を深める。生物の形態や構造と系統進化や機能との関連について、その習得を目指す。生体構成諸成分の物理化学的性質や生物学的機能について、生物現象との関連で理解を深める。</p>	

教養教育科目 基礎科目	統計学入門	<p>記述統計（代表値、散布度、度数分布、相関係数）と確率論（確率の概念、確率分布）では、必要な計算方式と、行動の規則として明確に理解させる。</p> <p>次にそれを踏まえて、推測統計（標本抽出、標本分布、推定と仮説検定、適合度の検定）では、統計的現象と統計理論との結びつきに注意させる。</p> <p>具体的には、実験や観察、調査によって得られた資料を整理し、そこから確率論を基礎として、論理的・科学的に情報を引き出す原理・法則を理解し、その手法を体得させる。</p>
	データサイエンス入門	<p>データの種類やデータを扱う際の倫理を理解し、人間社会においてデータを適切に活用して日常生活や職業生活に役立てていく力を育成することをねらいとする。到達目標は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データサイエンスおよびその知識・知見が不可欠とされる社会の特徴をあげることができる。 2. データの要約として、種々の基本統計量を算出して、提示することができる。 3. データの特徴に合わせて、適切な分析手法を選択・適用し、分析結果を提示・解釈することができる。 4. データ分析が示す結果を批判的に解釈しながら、望ましい行動や方針等を検討することができる。
	人間関係論	<p>社会的体験の不足や個性重視、情報化社会の進展などで、対人関係の希薄化や回避が増加している現代では、よりよい人間関係を構築するための能力向上が重視されている。このような社会的背景を考慮しつつ、社会心理学や臨床心理学の研究成果について講義を行う。特に、（自己概念、自我の形成、自己評価）、他者（対人認知、対人感情、対人行動等）、集団（集団のタイプ、集団の力学、集団と個人等）、対人関係のトラブルと解決（非社会的行動、反社会的行動、心理療法等）について理解を深める。</p>
	国際理解	<p>本授業では、国際関係のあり方を私達に身近な文化の問題として考える。国際関係では、国家間関係に加え、東アジア、東南アジア、北米、中南米、欧州、アフリカや中近東、さらには東欧などで、さまざまな地域内、地域間の政治的、経済的、国際法的な紛争が絶えない。そこで、こうした国際関係の諸問題及び国際社会において日本が置かれた状況に関して理解を深める。本講義は、学生一人一人が一般的な国際関係の諸問題を自分と関わりのあることとして識し、問題意識を持ちかつ自分なりの答えを持つことを目標としている。</p>
	コミュニケーション論	<p>コミュニケーションの定義・機能・特徴を概観したのち、コミュニケーションの諸要素について論じる。具体的にはコミュニケーションの方法（言語的・非言語的）、タイプ（パーソナルコミュニケーション、小集団におけるコミュニケーション、マスコミュニケーション）、コミュニケーションの場（家庭、学校、職場、近隣社会など）から考える。特に、医療の場において対象となる病者役割行動などを理解したうえで、患者及びその家族とのコミュニケーションを効果的にアプローチできる技能について検討する。</p>
	環境科学	<p>授業は基本的に講義形式で行い、1コマで1テーマを深く掘り下げる。環境について幅広い視野を持つために、地球温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化の進行、野生生物の減少、エネルギー資源の枯渇などの地球規模の問題から、シックハウス症候群、農薬、遺伝子組換え作物などの身近な問題まで、実態を正しく把握し、その原因を理解することを目標とする。合わせて、「持続可能な開発」「環境論理」「共存」などの考え方も理解し、21世紀の環境対策を考える。</p>
	自信を高める心理学	<p>精神的に健康に過ごし、自分を精神的に成長させていくために必要な知識とスキルの獲得を目的とし、授業の中で様々な体験的学習に取り組むことを通して、肯定的な心理的变化を起こすことを目標とする。自己肯定感や精神的健康、社会的適応を高めるうえで役立つ心理学的な個人ワークやグループワークを行い、精神的健康や精神的成長を阻害するような自己否定や自己嫌悪を和らげ、自己に対する態度をより健全で理想的な状態へと近づけていくことを目指す。</p>
	障害インクルージョン論	<p>現実の社会をリアルに知ること、実践的な障害理解と支援スキルを身につけること、学ぶことの楽しさを知ることが授業のねらいとする。障害のある子どもや人のコミュニケーション特性、虐待の構造、権利擁護の基本知識を学ぶ。</p>

教養教育科目 基礎科目 体育・スポーツ科目	基礎科目 パラスポーツ指導概論	様々な障がいのある人の生活やその障がいの特性に対する理解を深めるとともに、障がいがある人もない人もともに親しむことができるパラスポーツの意義や理念、ならびに支援するために必要な基礎知識・技能を理解・修得する。 パラスポーツの指導者に必要な知識や技能について、講義、演習、ならびに実技を通して学び、さらにパラスポーツの現場実習も行うことで、パラスポーツについての理解を深める。 (オムニバス方式/15回) (58 馬場 宏輝/13回) パラスポーツの意義と理念、諸施策、安全管理、障がいの理解等 (34 遠藤 隆志/2回) 指導上の留意点と工夫(車いすバスケットボール) パラスポーツを通じた障がいのある人との交流(現場実習)	オムニバス方式
	スポーツ健康科学 基礎理論	生涯スポーツの実践のために必要な運動やスポーツの効果について科学的知見に基づいて概説し、運動やスポーツは、余暇活動のひとつとして人生を充実させることとともに、体力を向上させることや生活習慣病の危険性を抑えることなどの効果をもたらす、発育発達や健康の保持増進に必要であることを理解することをねらいとする。	
	体育実技A	生涯スポーツとして実践するソフトボールに必要な基礎的な運動技能の修得とルールや戦術の学習を目指す。 また、生きがいや健康づくりの観点に立ち、自らスポーツを実践するための知識と体力を身につけ、運動やスポーツに対する好意的態度を養う。さらに、運動やスポーツを通してコミュニケーション・スキルを高め、仲間と協調し、社会人として貢献できる能力を身につける。 (オムニバス方式/14回 共同1回) (59 中島 亮一/7回) ソフトボール：基本技術、ルールと戦術の理解等 (60 下稲葉 耕己/7回) フットサル：基本技術、システム、戦術等 (59 中島 亮一・60 下稲葉 耕己・34 遠藤 隆志/1回) (共同) オリエンテーション	オムニバス方式・ 共同(一部)
	体育実技B	体育のうち「テニス」の領域について、基礎的なラケットの持ち方、ボールの打ち方に慣れ、ルールを理解し、ゲームを展開することを通して、運動能力の向上を図る。 また、対戦相手との戦術、仲間との協調性、審判の役割、運動と栄養、競技者の心理、指導の際の運営と管理など、関連事項の学習を通して理解と諸能力の向上を図る。併せて子どもに指導する際の指導方法や留意点に関する理解を持ち、実践できるようにする。 (オムニバス方式/全14回 共同1回) (60 下稲葉 耕己/7回) ソフトバレーボール：基本技術、戦術とゲームプラン等 (59 中島 亮一/7回) ソフトテニス：基本技術、総合練習等 (60 下稲葉 耕己・59 中島 亮一・34 遠藤 隆志/1回) (共同) オリエンテーション	オムニバス方式・ 共同(一部)
	体育実技C	体育のうち「ダンス」の領域について、体の各部位の動きを理解し、リズムに合わせた動きや他者と協力した動き、あるいはイメージに基づいた表現など、ダンスに関する基本的な能力を養い、ダンスの美しさや楽しさを体得する。 また、子どもにダンスをさせる際の指導方法や留意点に関する理解を持ち、実践できるようにする。 (オムニバス方式/全14回 共同1回) (34 遠藤 隆志/7回) バドミントン：基本技術、総合練習、応用技術等 (44 鈴木 瑛貴/7回) ダンス：自分の身体を感じて動く、遊びからダンスへ等 (34 遠藤 隆志・44 鈴木 瑛貴/1回) (共同) オリエンテーション	オムニバス方式・ 共同(一部)

教養教育科目 国際コミュニケーション科目 基礎演習科目	体育・スポーツ科目 体育実技D	生涯スポーツとして実践するレクリエーションスポーツに必要な基礎的な運動技能の修得とルールや戦術の学習を目指す。 また、生きがいや健康づくりの観点に立ち、自らスポーツを実践するための知識と体力を身につけ、運動やスポーツに対する好意的態度を養う。さらに、運動やスポーツを通してコミュニケーション・スキルを高め、仲間と協調し、社会人として貢献できる能力を身につける。 (オムニバス方式/14回 共同1回) (61 中島 悠介/14回) 全授業を担当 (61 中島 悠介・34 遠藤 隆志/1回) (共同) オリエンテーション	オムニバス方式・共同 (一部)
	英語 I	中学校や高等学校で学んだ英語の知識を基礎として、英語の4技能、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの力を総合的に高めていくことを目標とする。4技能においては、以下にあげた事柄を中心に学習していく。(1)リーディング：英語の短いトピックを、内容を充分理解した後、音読練習を行う (2)ライティング：日常生活に関連したトピックで英作文の練習を行う (3)リスニング：簡単な対話やニュースを理解する力を身につける (4)スピーキング：ロールプレーを通して話すことに慣れる	
	英語 II	英語 I で獲得した英語力をもとに、文法力と語彙力を増強させながら、読解力と聴解力の伸長を目指す。リーディングでは、健康や医療に関するトピックのほか、環境、時事関連や身近な生活など幅広い分野の教材を用い、精読、速読などを行いながら、様々なリーディングスキルを身に付け、読解力を伸ばしてゆく。また、リスニングでは、TOEIC、TOEFLや英検タイプのもとと医療関連の英語の教材を用い、オーセンティックな英語力の内容を素早く正確に聞き取る力を身につける。	
	英会話	英語による会話の基礎力として、英語による挨拶等、日常的な場面において、他人の言葉を聞く能力および態度、並びに自らの意思や考えを明瞭端的に伝える能力を身につけることを目標とする。また、この科目の学習を通して、社会において、英語による会話や議論の場に積極的に参加しようとする態度を養う。	
	キャリアアップ英語	グローバル化が急速に進展している社会において、英語による交流の機会は増大し、キャリアアップのための英語力の必要性も高まっている。本授業では、実用英語技能検定やTOEIC等資格試験の対策を通して、英語の技能を総合的に向上させることを目的とする。授業では自身の学習の振り返りや互いに教え合うことなどのような方法で、様々な場面に応じた表現を習得していくことを目指す。また、学んだことを活用して実際のコミュニケーションで使えるスキルを高め、英語を用いて言語や文化の異なる人々と積極的にコミュニケーションを行う態度も涵養する。	
	中国語入門	中国語を初めて学ぶ者を対象として、中国語の発音の基本を身につけ、日常生活で使われることが多い語彙を用いて、初歩的な会話ができる能力を養うことを狙いとする。 また、基本的な語彙と基本的な文型の学習を通して、子ども向けの絵本程度のやさしい文章を朗読できる力を養う。併せて、中国語の学習を通して、中国文化と日本文化との違いや類似点について理解を深める。	
	フランス語入門	フランス語を初めて学ぶ者を対象として、フランス語の発音の基本を身につけ、フランス語に特有な仕組みを理解し、日常的に用いる簡単な会話の聞き取りとそれに応答できる能力を養う。 また、英語以外の外国語としてフランス語を学ぶことを通して、フランス語の特徴やフランス語圏の文化に関する理解を深め、日本におけるフランス語の影響や日本文化と世界の文化に関する理解を深める。	
	ドイツ語入門	ドイツ語を初めて学ぶ者を対象として、ドイツ語の発音と挨拶などの基礎的な会話能力を身につけ、ドイツ語圏の生活や文化に親しむことを目標とする。 また、英語以外の外国語としてドイツ語を学ぶことを通して、ドイツ語の特徴やドイツ語圏の文化に関する理解を深め、日本におけるドイツ語の影響や日本文化と世界の文化に関する理解を深める。	
	情報機器演習	コンピュータの本体・周辺機器の基本動作を理解し、各種アプリケーションソフトウェアを用いて、情報の収集と整理から、発信とプレゼンテーションまでを演習によって習得する。あわせて、ネットワークの基本的な仕組みと活用法、インターネットと関連するサービスの基本的概念を理解し、ネットワークに接続されたコンピュータを主体的に活用するために必要な情報収集とデータ共有の技能を体得する。また、教育関係者や医療関連職に必要なICT活用の方策と、一般的なセキュリティ確保のための考え方と具体的な対策を身につける。	

教養教育科目	基礎演習科目	文章表現演習	正しい表記ルールに則り、適切な文章表現ができるということは必ずしも容易ではない。本科目では、文章表現の基本原則、特性を理解した上で、様々な文章類型の特色に適った文章作法を習得させる。演習の趣意を具現すべく、努めて実作、多作の機会を保障し、文章表現の適否長短を相互に分析、批評し合う検討の場を多く設ける。指導の力点は、説明的文章表現力の育成に置き、分かりやすく、読みやすい表現力を育てる。また、自己表現としての表現法も扱う。	
		読書技術演習	速読法は、人間の持っている文字情報の知覚・認知機能を基本とした読書行為に関する心理学的知見を活用し、文章の速読能力を身につけ、情報処理能力を高めることを目的とする。本授業では、速読法の理論と基礎技術について学び、演習で技術を身につけていく。 また、スペインで生まれた読書教育法アニメーションを取り入れ、読書に対しての興味関心を育成することを目的とし、読書指導として使用できる技術について演習していく。読書座談会を含む読書体験の共有化は、読書を実施し、得た情報を聞き手に伝えることにより、読書経験を相互に積むことを目的とする。共有化によって、多くの本に触れられるようにする。	
		自然科学基礎演習	本演習は、一般教養として科学的判断力を身につけることを目的とする。本学の受講者は人を対象とする職業に就くので、豊かな人間性や倫理性に加え、人間を科学的に分析する能力が必要となってくる。これらの能力を身につけるため、本演習では、高校の物理・化学・生物の基礎的知識を確認したのち、それらの知識が人体や人の行動あるいはそれを取り巻く環境を理解する上でどのように使われているかを学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (37 山本 雅哉／6回) 自然科学序論、単位と数、物質の構成、溶液、pH、圧力、気体の溶解 (42 角 正美／4回) 生命の基本単位、3大栄養素、代謝とエネルギー、遺伝 (47 千葉 諭／5回) 速度・加速度、力と運動、波動、電気	オムニバス方式
		海外研修Ⅰ	所属する学部の専門性を活かし、海外の語学教育施設での語学研修やフィールドワーク、その他海外でのインターンシップ等への参加によって、一定の成果を上げ、教育上有益と認めた場合、活動時間や内容に応じて単位認定を行う。語学研修では海外の語学教育施設の講義を指定時間以上受講する。フィールドワークでは、海外でのボランティア活動や現地施設への視察・訪問を通して体験・学習活動を行う(原則として本学教員が企画した海外研修・活動を対象とする)。インターンシップでは、海外の受け入れ機関にて指定時間以上準職員として所属し、現地の職場を体験することや業務に従事する活動を行う。	
		海外研修Ⅱ	海外研修Ⅰの学修に加え、さらに海外研修Ⅰの要件を満たした研修を行い、学修成果が認められた場合に単位を認定する。	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	人間の身体はどのような器官・臓器から成り、どのような構造をしているか、また、それぞれがどのような働きをしているかを系統的に学ぶ。1. 人間の身体的主要な器官・臓器(神経系、感覚器、運動器、血液、内分泌系、生殖系)の各部位の名称を理解し、それぞれがどのような構造であるかを理解する。2. 人間の身体的主要な器官・臓器がどのような働きをしているかを理解する。3. 人間の身体がどのように生命活動を維持し、内部環境を調整し、外部環境から防御しているかを理解する。	
		人体の構造と機能Ⅱ	人間の身体はどのような器官・臓器から成り、どのような構造をしているか、また、それぞれがどのような働きをしているかを系統的に学ぶ。1. 人間の身体的主要な器官・臓器(循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系)の各部位の名称を理解し、それぞれがどのような構造であるかを理解する。2. 人間の身体的主要な器官・臓器がどのような働きをしているかを理解する。3. 人間の身体がどのように生命活動を維持し、内部環境を調整し、外部環境から防御しているかを理解する。	

専門教育科目 専門基礎科目	人体の構造と機能 演習	<p>対象の健康状態を判断する能力および必要な医療や生活調整を判断する能力を修得する。身体の構造と機能の知識を活用しながら、健康状態を判断するための観察技術として、問診、フィジカルイグザミネーションを実践的に学ぶ。演習のほか模擬事例を用いながら対象の系統別アセスメントおよび1人の人間としての健康状態をアセスメントする。1. 看護におけるヘルスアセスメントの意義を理解し、説明できる。2. アセスメントに必要な知識と技術を理解し、適切に観察できる。3. 得られた情報から科学的根拠に基づき、対象者の健康状態および必要な医療・生活調整を判断し記述できることを目的とする</p> <p>(18 阿部由喜湖/15回) 講義・演習・技術試験の担当、演習グループの指導、技術試験のチェッカーを行う。</p> <p>(③ 永田亜希子, 25 中條華子, 助手/15回) (共同) 演習のデモンストレーションの補佐、演習グループの指導、技術試験のチェッカーを行う。</p>	共同 講義 7時間 演習 23時間
	薬理学	<p>薬物についての基本事項(薬理作用、与薬時の注意、有害事象等)や主な治療薬の作用、適応、有害事象、および薬物を投与する対象による注意点を学ぶ。また、薬物の管理や取扱いに関する事項を身につける。これらに関連付けながら学ぶことで、薬物療法を行うために必要な知識と考え方を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(66 古林 園子/3回) 薬物の作用点と薬物動態、薬物の蓄積・耐性・依存、薬理作用の規定要因について講義を行う (67 宮野 孝彬/3回) 薬物の相互作用とポリファーマシー、薬物の投与方法の特徴等について講義を行う (68 早川 史織/3回) 主な治療薬の作用、適応、有害事象について講義を行う (69 松永 浩明/3回) 投与対象による薬物投与の注意点等について講義を行う (70 大熊 玲子/3回) 薬物管理の注意事項、薬害と薬物の職業性被曝、創薬と今後の展望について講義を行う</p>	オムニバス方式
	生化学・栄養学	<p>生体は生命活動を営むエネルギーを生成するために栄養素を外部から摂取する。摂取した物質の流れを学ぶのが栄養学であり、その裏付けとなるのが生化学である。本科目では、体内での化学反応である代謝とそれを触媒する酵素について学ぶ。また、看護職が生化学・栄養学を学ぶ意義を踏まえ、必要な栄養素に関して、発達段階や性差、健康状態などによりどのような特徴があるかを学ぶ。</p>	
	運動学	<p>人間の運動を、特に身体ケアを受ける者と提供する者の効果的な身体の動かし方に着目して学ぶ。運動が心身に与える影響を理解し、傷病の予防、回復促進、健康増進に運動を取り入れるための基本的知識を身につける。1. 人間の身体の運動のしくみと効果的に身体を動かす方法を理解する。2. 身体を使ってケアを提供する者の効果的な身体の動かし方を理解する。3. 運動が身体と心とに与える影響を多面的に理解する。</p>	
	ゲノム・遺伝学	<p>さまざまな遺伝的な問題をもつ人々、および家族への看護の役割を遂行するために必要な知識、遺伝医療に伴う倫理的・法的・社会問題について学ぶ。①遺伝医療における看護の現状と展望 ②看護に必要な人類遺伝学の知識 ③主な遺伝性疾患の理解 ④遺伝看護の実践(胎児・周産期、小児期、成人期等) ⑤遺伝医療サービスと看護倫理 ⑥遺伝看護の役割と課題、について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式による講義/全8回)</p> <p>(72 青木美紀子/7回) 遺伝看護・遺伝カウンセリング、人類遺伝学の基礎知識、家族歴聴取・家系図作成、遺伝医療と看護：小児期・成人期、遺伝医療と社会・倫理</p> <p>(73 船木明日美/1回) 遺伝医療と看護：周産期</p>	オムニバス方式
感染と防御	<p>微生物が人に感染症を引き起こす過程と微生物の性質、微生物に対する人の防御のしくみ、代表的な細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症について学ぶ。1. 感染症の成立過程、微生物の病原性、感染に対する生体防御の機序、代表的な微生物による感染症について説明できる。2. 目に見えない生体防御のしくみ、微生物の存在についてイメージし、感染防止対策、無菌操作・清潔操作を適切に実施する力を身につける、ことを目標とする。</p>		

専門 教育 科目	専門 基礎 科目	病態学	<p>病気の原因とそれに対する細胞・組織の変化・反応、血液・体液の循環の異常によって発生する循環障害、有害刺激を排除し、障害を局所にとどめようとする防御反応である炎症、からだを構成する物質代謝の異常によって生じる代謝異常、出生前の異常によっておこる先天異常、老化を背景に発症する老年病、からだを構成する細胞の無秩序、過剰な増殖である腫瘍について、それぞれの発生機序・病態について学ぶ。</p>	
		疾病と治療Ⅰ (内科系疾患)	<p>薬物療法などの内科的治療を行う代表的な疾病の症状、診断、治療について系統別に学ぶ。脳・神経系疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、アレルギー・膠原病疾患、血液・造血器疾患の病態、治療等について基本的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(75 長瀬さつき／1回) 脳・神経疾患の診断と治療について講義を行う (76 江渡秀紀／1回) 呼吸器疾患の診断と治療について講義を行う (77 高見徹／1回) 循環器疾患の診断と治療について講義を行う (78 金田暁／1回) 消化器疾患の診断と治療について講義を行う (79 今澤俊之／1回) 腎・泌尿器疾患の診断と治療について講義を行う (80 大野友寛／1回) 内分泌・代謝疾患の診断と治療について講義を行う (81 中澤卓也／1回) アレルギー・膠原病疾患の診断と治療について講義を行う (82 上原多恵子／1回) 血液・造血器疾患の診断と治療について講義を行う</p>	オムニバス方式
		疾病と治療Ⅱ (外科系疾患)	<p>手術により治療する代表的な疾病の症状、診断、治療について系統別に学ぶ。脳神経疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、乳腺・甲状腺疾患、婦人科疾患、泌尿器疾患、整形外科疾患のうち、手術療法を行う代表的な疾患について、病態や検査、術式、手術侵襲、術後管理等について基本的な知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(83 小林英一／1回) 脳・神経疾患の診断と治療について講義を行う (84 千代雅子／1回) 呼吸器疾患の診断と治療について講義を行う (85 鬼頭浩之／1回) 循環器疾患の診断と治療について講義を行う (86 里見大介／1回) 消化器疾患の診断と治療について講義を行う (87 鈴木正人／1回) 乳腺・甲状腺疾患の診断と治療について講義を行う (88 黒田香織／1回) 婦人科疾患の診断と治療について講義を行う (89 一色真造／1回) 泌尿器疾患の診断と治療について講義を行う (90 大河昭彦／1回) 整形外科疾患の診断と治療について講義を行う</p>	オムニバス方式
		疾病と治療Ⅲ (小児の疾患・感染症)	<p>成人とは異なる小児の疾患、診断、治療の特徴を学修すし、看護の根拠となる基礎的知識を身につける科目。1.小児の疾患、診断、治療の特徴を理解し、説明できる。2.小児期の代表的な疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝・内分泌疾患、免疫疾患、血液・造血器疾患・悪性新生物、腎・泌尿器疾患、脳・神経疾患）の診断・治療方法について理解し説明できる。3.代表的な感染症の診断・治療方法について理解し説明できることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(92 須藤扶佐代／3回) 小児の疾患、診断、治療の特徴、小児のウイルス感染症・細菌感染症、ワクチン、小児の血液疾患・悪性疾患・腎疾患・事故について講義を行う (91 鈴木修一／3回) 新生児・小児の循環器・呼吸器・消化器疾患、小児の免疫疾患、アレルギー・膠原病、小児の循環器疾患について講義を行う (93 石原あゆみ／2回) 小児の神経疾患、筋疾患、代謝異常、発達障害について講義を行う</p>	オムニバス方式

専門 教育 科目	専門 基礎 科目	疾病と治療IV (高齢者の疾患・ 精神疾患)		<p>高齢者に特有な疾患と治療及び精神科疾患の診断と治療について学修する科目。1. 老化と老年症候群及び高齢者に特有な疾患(脳血管疾患後遺症, 慢性閉塞性肺疾患, 骨粗鬆症, 変形性関節症, 骨折等)の診断と治療について理解し説明できる。2. 認知症の症状, 診断と治療について理解し説明できる。3. 代表的な精神科疾患(統合失調症, 気分＜感情＞障害, 神経性障害, ストレス関連障害等)の診断と治療の特徴について理解し説明できることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(94 高林克日己/4回) 老化と老年症候群, 高齢者に特有な疾患の診断と治療について講義を行う。</p> <p>(95 渡邊博幸/全4回) 精神疾患の分類, 診断と治療の特徴, 代表的な精神疾患の診断と治療について講義を行う</p>	オムニバス方式
		保健医療統計学	○	<p>健康や傷病に関する医療統計について, 公表されている代表的な統計資料の内容を学ぶ。特に, 対象やデータ収集方法を理解し, 医療統計を正確に理解できることを学ぶ。医療統計を学ぶことにより, 集団の健康や傷病状況について, これまでの推移や現状を理解するだけでなく, 将来の予測を行い, 看護職としての今後の活動について理解を深めることを目指し, 8回の講義を行う。</p>	
		保健医療情報学	○	<p>情報学の進展に伴い, 保健医療の分野でも様々なシステムが運用されている。看護職がこうしたシステムを活用するためには, コンピュータリテラシーと情報リテラシーを獲得する必要がある。さらに, 情報を扱う際の倫理的な問題や態度を身につけることは不可欠なことである。本授業では, 保健医療情報学の基礎を学び, 現状のシステムの概略について学ぶために, 8回の講義を行う。</p>	
		公衆衛生学・疫学	○	<p>健康状態や生活習慣を把握する際に, 個人を対象としたものと集団を対象としたものがある。本授業は, 集団を観察単位として健康事象の発生分布を観察し, それを規定する要因を追及し, 健康現象の機序を解明することを目的とする疫学の方法について学ぶ。また, 集団を対象にした疫学の活用について, 公衆衛生活動の実践として感染症と環境保健をテーマに学ぶために, 8回の講義を行う。</p>	
		疫学演習	○	<p>疫学研究方法の実践として, 横断研究をグループ演習として実施する。健康調査票と生活習慣調査票の作成方法を学び, web 調査としてデータを収集し, 健康と生活習慣の関係について分析を行う。さらに, その結果をまとめた報告書の作成を行う。こうした一連の過程を学ぶことによって, 疫学の活用について理解を深めるために, 15回の演習を行う。</p> <p>(共同による演習/全15回)</p> <p>(4 北池正, 16 姫野雄太/15回) (共同) 演習のグループを分担して受け持ち, 指導を行う。</p>	共同
		保健医療福祉制度論	○	<p>わが国における保健・医療・福祉の行政の基本と仕組みを理解した上で, 各分野の対策の実際や動向について学ぶ。特に看護職と関係の深い医療保障と介護保障, 保健医療福祉計画の推進については詳しく学ぶ。さらに, 国際協力活動については, 歴史的な取り組みとともに, 現在の取り組み状況と課題について学ぶ。1. 保健医療福祉の行政の基本と仕組みについて説明できる。2. 保健医療福祉の対策の実際や動向について説明できる。3. 保健医療福祉の計画策定や国際協力について説明できる, ことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 北池正/8回) 保健医療福祉の行政・制度, 医療保険制度の構造と体系, 保険診療の仕組み, 国民医療費, 保健医療福祉計画の策定等</p> <p>(96 布施千草/7回) 社会保険制度と社会福祉, 介護保険制度, 所得保障制度, 公的扶助, 社会福祉援助等</p>	オムニバス方式

専門教育科目 専門基礎科目	地域資源とマネジメント	○	<p>様々な状況下で生活を送る人々が、社会資源を活用しながら自身が望むより健康的な生活を実現できるように、看護専門職が他職種・他機関と連携しながら、効率的・効果的に必要とされる看護サービスを適用・創造するためのマネジメントの機能について学ぶ。また、地域において看護職に期待されるマネジメント及び求められる能力を理解し、マネジメントを効果的に運用するための看護職のあり方について考える。</p> <p>(オムニバス方式の講義/全3回, 共同による演習(課題ワーク)/全5回)</p> <p>(1 宮崎美砂子/1回) 地域におけるケアのマネジメントの概念, 社会資源の適応・創造との関係, 他職種・他機関との連携等について講義する</p> <p>(12 岩瀬靖子/2回) ケアマネジメントの目的・過程・実際, 社会資源としての諸制度と根拠となる法律等について講義する</p> <p>(1 宮崎美砂子・12 岩瀬靖子・20 井口紗織/5回) (共同) 模擬事例を検討する課題ワークにおいて指導を行う</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 講義 6時間 演習 10時間
	医療経済学		<p>医療を取り巻く問題を考えるにあたっては、経済学的な視点を持つ必要がある。授業前半で経済学的の基本的な考え方を学び、後半でそれらを用いて医療の諸問題を考える。1. 経済学の基本的な考え方やツールを理解する。2. 医療を取り巻く諸問題を経済学的視点に立って見ていくことで、それらの諸問題の理解へと繋げることを目標に8回の講義を行う。</p>	
	家族社会学	○	<p>1. 家族の役割機能や家族の多様性について理解し説明できる。2. 家族を取り巻く社会について理解し説明できる。3. 根拠に基づき家族への看護を行うための家族理論や家族看護について理解し説明できることを目的とし、日本における社会と家族の変遷をふまえて、家族の定義、家族の形態や役割機能について学ぶと共に、育成期、成人期、老年期の各ライフステージ及びコミュニティにおける家族の特徴と多様性、家族を取り巻く社会について学ぶ。さらに、根拠に基づき看護を行うための家族理論や家族看護について理解するための講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(2 中村伸枝/5回) 日本における社会と家族の変遷, 家族の定義・形態・役割, 育成期の家族の特徴, 家族看護等について講義を行う</p> <p>(21 松戸麻華/1回) 現代社会と成人期の家族の特徴について講義を行う</p> <p>(8 田所良之/1回) 現代社会と老年期の家族の特徴について講義を行う</p> <p>(20 井口紗織/1回) 現代社会におけるコミュニティと家族の特徴について講義を行う</p>	オムニバス方式
	専門職連携論	○	<p>医療やケアを必要とする人々のニーズに対して、専門領域のそれぞれの立場から連携して応えることができるようになるための基礎的な考え方、態度、技術を修得する。看護学部、保健医療学部、発達教育学部の学生が、同じ場でともに学び、お互いから学び合いながら、お互いのことを学ぶことを重視する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (講義/3回, 演習(グループワーク・ワークショップ)/5回)</p> <p>(12 岩瀬靖子, 14 中水流彩, 16 姫野雄太: 看護学部/8回) 共同 パーソン・センタード・ケアとは、専門職連携の意義, 看護学の領域と役割について講義を行う。患者やサービス利用者の体験談の進行, 3学部合同グループでのワークや発表の指導を行う</p> <p>(35 三浦達浩 36 池田恭敏: 保健医療学部 32 實川教子 38 高瀬浩司: 発達教育学部/7回) (共同) それぞれの専門領域と役割について講義を行う。患者やサービス利用者の体験談の進行, 3学部合同グループでのワークや発表の指導を行う</p>	オムニバス方式・共同 (3学部合同) 講義 6時間 演習 10時間

専門教育科目	専門科目	エレメンタリーセミナー	○	<p>植草学園大学での学びの在り方、大学生としての学修に向かう方法や姿勢を理解し、看護専門職をめざす目的・意思を再確認して学びの動機づけとする。看護職の歴史、国内外の看護職の社会的・職業的自立の現状と課題を理解し、看護職が社会の中で役割発揮するために取り組むべきこと、さらに学生が看護職の自立と自身の将来展望を関連づけて考えられるように知識を得ると共に、様々な場で活動する看護職から活動内容と将来展望を聞く。</p> <p>(オムニバス方式による講義／全7回、共同による演習（グループワーク）／全8回)</p> <p>(1 宮崎美砂子、植草和典（ゲストスピーカー）／1回) 建学の精神とインクルージョンについて講義を行う (2 中村伸枝／1回) 看護学の系統的な学びと多様な実践について講義を行う (2 小西美ゆき／3回) 大学における学び、評価・振り返りの方法について講義を行うと共に、様々な場で活動する看護職についてゲストスピーカーと共に講義を行う (6 栗栖千幸／1回) 看護に関する現状、課題、展望について講義を行う (4 北池正／1回) 看護と保健・医療の歴史について講義を行う (7 小坂恵美／1回) 国内外における看護職の社会的・職業的自立の現状と課題について講義を行う (16 姫野雄太／1回) 文献、インターネットを用いた学習・検索の方法について講義を行う (2 小西美ゆき、17 松尾尚美、14 中水流彩、19 石井優香、16 姫野雄太、12 岩瀬靖子／7回) 共同 グループを分担して受け持ち、グループワークの指導を行う</p>	オムニバス方式・共同（一部） 講義 14時間 演習 16時間
		看護学原論 I	○	<p>看護とは何か、看護の視点からの対象理解、看護の役割は何かについて学ぶ。看護実践に必要な基本概念（看護・人間・健康・環境・病気）および立場の変換能力について理解する。個々の看護者が対象をどのように認識するか、および自己の認識をどのように表現できるかという能力によって、看護の質的レベルが左右されることについて、具体的な事例を用いて、理解を深める。「人間のよりよい生存・生活のために」看護職が果たす責務について理解する。</p> <p>(講義・演習方式/全15回)</p> <p>(3 永田亜希子/15回) 講義の実施、演習の指示</p> <p>(18 阿部由喜湖、25 中條華子、助手/15回) 共同 演習、4回～6回、9回～12回のグループワーク支援</p>	共同 講義 16時間 演習 14時間
		看護学原論 II	○	<p>教材事例の日常生活力および健康状態のアセスメントから必要な日常生活援助および援助計画を考える。模擬的状況下で援助計画を実践し、評価する。この一連の過程から、自己の学習課題を明確にする。また、看護理論の発展過程および看護理論の看護実践への適用について学び、看護理論が果たす役割について理解する。</p> <p>(講義・演習方式/全15回)</p> <p>(3 永田亜希子/15回) 講義の実施、演習の指示</p> <p>(18 阿部由喜湖、25 中條華子、助手/15回) 共同 演習、2回、4回～10回、12回のグループワーク支援</p>	共同 講義 12時間 演習 18時間
		看護基本技術 I	○	<p>看護の対象となる人々の生活を支える基本技術として、生活環境を整える、感染を予防する、運動と休息を整える、食と排泄を整える技術を修得する。相手の立場に立ち対象の状況から看護の必要性を捉え、各援助の原理・原則に基づき、対象の状況に合わせて援助することを実践的に学ぶ。</p> <p>(講義・演習方式/全15回)</p> <p>(18 阿部由喜湖/15回) 講義・演習・技術試験の担当、演習グループの指導、技術試験のチェッカーを行う。</p> <p>(3 永田亜希子、25 中條華子、助手/15回) 共同 演習のデモンストレーションの補佐、演習グループの指導、技術試験のチェッカーを行う。</p>	共同 講義 7時間 演習 23時間

専門教育科目	専門科目	看護基本技術Ⅱ	○	<p>看護の対象となる人々の生活を支える基本技術として、清潔を整える技術を学ぶ。相手の立場に立ち対象の状況から看護の必要性を捉え、各援助の原理・原則に基づき、対象の状況に合わせて援助することを実践的に学ぶ。看護基本技術Ⅰで学んだ技術を活用しながら設定状況に応じた複合的な援助の実践に取り組む。</p> <p>(講義・演習方式/全15回)</p> <p>(18 阿部由喜湖/15回) 講義・演習・技術試験の担当, 演習グループの指導, 技術試験のチェッカーを行う。</p> <p>(③ 永田亜希子, 25 中條華子, 助手/15回) 共同 演習のデモンストレーションの補佐, 演習グループの指導, 技術試験のチェッカーを行う。</p>	<p>共同</p> <p>講義 7時間 演習 23時間</p>
		看護基本技術Ⅲ	○	<p>診断・治療に伴う基本技術と療養過程を支える基本技術を修得する。基本技術として、無菌操作、創傷治癒管理、呼吸・循環を整える、食と排泄を整える、検査・与薬における技術を学ぶ。患者・医師・看護者の三者関係に基づき、各援助の原理・原則をふまえながら対象者に安全に実施する方法を修得する。</p> <p>(講義・演習方式/全15回)</p> <p>(18 阿部由喜湖/15回) 講義・演習・技術試験の担当, 演習グループの指導, 技術試験のチェッカーを行う。</p> <p>(③ 永田亜希子, 25 中條華子, 助手/15回) 共同 演習のデモンストレーションの補佐, 演習グループの指導, 技術試験のチェッカーを行う。</p>	<p>共同</p> <p>講義 7時間 演習 23時間</p>
		看護基本技術Ⅳ	○	<p>教材事例を用いて、対象の全体像を描き、生物体の必要条件を導きだし、対象者の個別的な反応を重ねながら、看護の方針を定めて具体的な看護計画立案への進む思考のプロセスを学ぶ。計画立案後、模擬的状況下で援助を実践し、その援助場面を看護の方針に照らして評価する評価方法について学ぶ。本科目の後に開講される基礎看護学実習Ⅱに向けたシミュレーション学習である。</p> <p>(講義・演習方式/全15回)</p> <p>(③ 永田亜希子/15回) 講義・演習の担当</p> <p>(18 阿部由喜湖, 25 中條華子, 助手/15回) (共同) 演習のグループ、個別指導</p>	<p>共同</p> <p>講義 7時間 演習 23時間</p>
		看護基本技術Ⅴ	○	<p>基礎看護学実習における自己の看護実践を振り返って看護過程の特徴をつかむとともに、看護過程展開の技術の修得状況を確認し、看護者として自己を成長させる学習課題を明らかにする。</p> <p>(講義・演習方式/全15回)</p> <p>(③ 永田亜希子/15回) 講義・演習の担当</p> <p>(16 阿部由喜湖, 25 中條華子, 助手/15回) 共同 演習のグループ、個別指導</p>	<p>共同</p> <p>講義 7時間 演習 23時間</p>
		看護倫理	○	<p>人々の生命と人権を尊重して実践される看護活動に必要な道徳と倫理の基礎知識および、看護活動の場(臨床)における倫理的課題について学び、看護支援が必要な課題について理解する。看護職の倫理綱領および保健師助産師看護師法から看護職の責務について学び、倫理的対応が必要な看護現象の特徴を理解し、倫理的感性を高める機会とする。さらに、倫理的判断過程および対応の協働に関する考え方を習得する。</p>	

専門 教育 科目	専門 科目	地域包括ケア論	<p>地域共生社会の実現に向けて、包括的かつ継続的に必要とされるケアを創造的に構築する地域包括ケア及び地域包括ケアシステムの考え方を学ぶ。ケアを必要とする人の特性別に事例を用いて、必要とされる地域資源、そのネットワーク化、システムづくりといった地域包括ケアシステムの形成過程及び包括的なケアシステムの意義について具体的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式による講義と演習(事例検討)／全8回)</p> <p>(8 田所良之／2回) 地域共生社会と地域包括ケア、地域包括ケアにおける看護の役割について講義を行う。</p> <p>(10 上原たみ子／1回) 社会資源とネットワーク化、システムづくりの過程について講義を行う。</p> <p>(19 石井優香／1回) 地域包括ケアと認知症をもつ人の事例検討の進行、指導を行う。</p> <p>(20 小西美ゆき／1回) 地域包括ケアとエンド・オブ・ライフケアの事例検討の進行、指導を行う。</p> <p>(5 林ひろみ／1回) 地域包括ケアと妊娠・出産の事例検討の進行、指導を行う。</p> <p>(14 中水流彩／1回) 地域包括ケアと子ども・子育ての事例検討の進行、指導を行う。</p> <p>(4 館祥平／1回) 地域包括ケアと精神障害者の事例検討の進行、指導を行う。</p>	オムニバス方式 講義 8時間 演習 8時間
		急性期看護学概論	<p>成人期にある人が、急激に健康状態が変化した状況、および重篤な身体的問題を生じている状況における看護支援について学ぶ。これらの状況には、手術を受ける患者の看護、救急医療・集中治療を受ける患者の看護などを含み、周術期の身体侵襲と回復過程、救急医療・集中治療下にある人の心身の状態を理解し、必要なアセスメント、看護援助内容と具体的方法についての知識を修得する。</p> <p>(オムニバス形式／全8回)</p> <p>(1 浅野美知恵／3回) 喉頭摘出術を受ける患者、胃切除術を受ける患者、乳房切除術を受ける患者の看護について講義を行う。</p> <p>(2 小西美ゆき／3回) 手術を受ける患者の術前・術中・術後の看護、人工股関節置換術を受ける患者の看護について講義を行う。</p> <p>(17 松尾尚美／1回) 心・血管手術を受ける患者の看護について講義を行う。</p> <p>(21 松戸麻華／1回) 救急・手中治療を受ける患者の看護について講義を行う。</p>	オムニバス方式
		慢性期看護学概論	<p>成人期にある人が、生活習慣に関連した疾患の治療・療養を要する状況、疾病や健康障害とともに生活を継続する状況における看護支援について学ぶ。これらの状況には、慢性疾患の治療を受けながら療養をする患者の看護、リハビリテーションに取り組みながら生活を続ける患者の看護などを含み、長期に渡る療養を継続する人の心身の状態を理解し、慢性疾患による症状・困難への対処、治療に対するアドヒアランスを理解し、必要なアセスメント、看護援助内容と具体的方法についての知識を修得する。</p> <p>(オムニバス形式／全8回)</p> <p>(1 浅野美知恵／3回) 慢性疾患患者のセルフケアと継続看護、脳梗塞患者及びがんの化学療法・放射線療法を受ける患者の看護について講義を行う。</p> <p>(2 小西美ゆき／3回) 神経難病患者及び肝疾患患者、腎疾患患者の看護について講義を行う。</p> <p>(15 松尾尚美／2回) 糖尿病患者及び呼吸器疾患患者の看護について講義を行う。</p>	オムニバス方式

専門教育科目 専門科目	成人（急性・慢性） 看護方法Ⅰ	○	<p>対象者に必要とされる看護を考えて計画立案する方法を修得する。特定の状況下にある患者に必要な看護のポイントを明らかにする考え方を個人・グループワークにより学ぶ。また、看護過程の展開の各要素（段階）について講義と個人ワークを通じて理解し、続いてペーパー・シエントの事例の看護過程を個人・グループワークで展開することにより、看護過程の展開の方法を身につける。</p> <p>（オムニバス方式の講義／7回、演習（事例展開）／8回）</p> <p>① 浅野美知恵／3回 成人期にある患者の治療・療養の場と多職種連携、がん患者の治療・療養と看護、看護過程の展開1について講義を行う。</p> <p>② 小西美ゆき／2回 看護過程の展開2・3について講義を行う。</p> <p>③ 松尾尚美／1回 短時間でのアセスメントと援助を必要とする患者の看護について講義を行う。</p> <p>④ 松戸麻華／1回 人工呼吸器を装着した患者の治療・療養と看護について講義を行う。</p> <p>⑤ 浅野美知恵・⑥ 小西美ゆき・⑦ 松尾尚美・⑧ 松戸麻華／8回 共同 事例の看護過程の展開のグループワークを分担して指導する。</p>	オムニバス方式・ 共同（一部） 講義 14時間 演習 16時間
	成人（急性・慢性） 看護方法Ⅱ	○	<p>疾病に罹患し治療を受けたり、健康障害がある人の援助に必要な看護技術を修得する。各看護技術ごとに自己学習、教員によるデモンストラーション、学生グループによる技術修得練習、技術の自己・相互評価を実施することにより、正確で安全な技術を患者に実践できる到達度まで身につける。また、学生が看護師・患者役割を交互に担うことで、患者の立場からの技術に対する快適性や安心感を実感し、相互にフィードバックして技術の信頼性を高める。複数の技術を連続してあるいは組み合わせる実施する場面設定の実践により、修得した技術を振り返り学生が相互評価する機会を設定する。</p> <p>（共同による演習（技術演習）／全15回）</p> <p>① 浅野美知恵・② 小西美ゆき・③ 松尾尚美・④ 松戸麻華／15回 共同 各看護技術についてグループを分担して指導を行う。</p>	共同
	ヘルスプロモーション	○	<p>ヘルスプロモーションの展開について、オタワ憲章に始まり、各国の取り組みや各領域での取り組みの流れを学ぶ。個人の健康問題だけでなく、環境要因や家庭・コミュニティ・地域、社会政策などの取り組みを通してヘルスプロモーションの考え方を理解する。さらに、看護におけるライフステージ別や領域別での実践について学ぶ。1. ヘルスプロモーションの展開について説明できる。2. ヘルスプロモーションの理論について説明できる。3. ヘルスプロモーションの実践について説明できる、ことを目標とし、8回の講義を行う。</p>	
	エンドオブライフケア	○	<p>人生の終末にある人の身体面・心理面・社会面・スピリチュアル面の特徴を学び、人間にとって豊かなエンドオブライフについて考察を深める。人生の終末にある人の健康上の問題および援助方法について学び、その人らしく生き抜くことの支援について考える。また、エンドオブライフケアに有用なトータルペイン、緩和ケア、アドバンスケアプランニングなどの概念を学び、対象理解や看護への適用についての基本的な考え方を習得する。</p>	
	成人看護学概論	○	<p>成人期にある人の身体的、心理・社会的特徴およびライフサイクルにおける成人期の発達段階の課題を学び、看護の対象としての成人を理解する。成人期にある人の健康上の問題、生活習慣、成人期にある人が置かれている現代社会における環境の特徴を学び、看護支援が必要な課題について考える。また、成人期の健康問題を理解し、支援するうえで有用な、危機理論、ストレス・コーピング理論、セルフケアなどの各理論、概念について学び、対象理解や看護への適用についての基本的な考え方を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>① 浅野美知恵／5回 成人期の特徴と発達課題、健康特性と健康問題、自己管理に関する概念、対象者の強みに関する概念、慢性疾患をもつ患者・リハビリテーションを行う患者の看護について講義を行う。</p> <p>② 小西美ゆき／3回 患者指導と家族への看護、急性期・クリティカルな状況にある患者の看護について講義を行う。</p>	オムニバス方式

専門教育科目	専門科目	老年看護学概論	○	<p>本科目では、老年期にある人の身体的・精神心理的・文化社会的特徴とそれぞれの変化、高齢者の発達課題、ならびに、それら発達課題・健康と健康レベル・生活上の課題に応じた看護上の課題、老年期にある人の看護実践の基盤となる概念・理論について学ぶ。また、老年期にある人を取り巻く社会情勢をふまえて高齢者をめぐる法律・施策、統計を含めて学習し、保健医療福祉領域における看護の役割と機能についても学ぶ。</p> <p>(8 田所良之/8回) 老年期とは、老年期における身体的特徴と変化、精神心理的特徴と変化、文化社会的特徴と変化、発達課題、高齢者の対象特性と高齢者における健康の概念、老年期にある人への看護実践の基盤となる概念・理論等について講義を行う。</p> <p>(8 田所良之, 19 石井優香/7回) 共同 高齢者の看護の展開における課題について、認知症をもつ人や高齢者の医療や意思の決定など具体的テーマで展開する。</p>	共同 (一部)
		老年看護方法 I	○	<p>加齢にともない高齢者に生じやすい健康障害と生活機能の変化、それらの関連について学ぶ。また、健康障害や生活機能の変化を有する高齢者への看護や高齢者家族への看護、高齢者の看護を行う上で生じやすい倫理的課題について学び、演習・グループワーク等を通して、高齢者の自律を尊重した看護援助の方法を修得する。</p> <p>(8 田所良之, 19 石井優香/15回) 共同</p>	共同
		老年看護方法 II	○	<p>施設入所中の認知症をもつ高齢者の事例を通して、様々な健康問題をもち様々な健康レベルにある老年期の人々を人生の最終段階に向けて自身の力を発揮しつつ生活する存在ととらえることを学ぶ。また、看護上の問題だけでなくその人の強みを活かして看護上の着目点を抽出し、それらの関連性の検討に基づいて看護目標、看護援助の方針、対象者にとっての豊かな生を導き出し、その人にとっての「豊かな生」を支えるための看護援助について学ぶ。小グループ内、ミックスグループ内でのディスカッション・プレゼンテーションを通じた事例中の高齢者の看護計画を立案、立案した計画についての自己評価・他者評価などの協働学習を行う。</p> <p>(8 田所良之, 19 石井優香, 助手/15回) 共同</p>	共同
		母性看護学概論	○	<p>母性看護の基礎なる科目。母性看護学における対象の特徴と看護の特徴および役割を理解するために、母性看護実践の基盤となる概念、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状、母性の身体的・心理社会的特徴について、さらには母性看護学領域における倫理的課題とその対応について学ぶ。また、母性看護学方法論につながる周産期の特徴、医療体制、母性看護学における看護展開の特徴について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 林ひろみ/12回) 母性看護学の概念、母性看護実践の基盤となる理論と概念、母子保健統計、母子に関わる法律と母子保健施策、ライフサイクルにおける女性の健康と看護等について講義を行う。</p> <p>(13 鈴木聡子/2回) 思春期における女性の健康と看護、国際化における母性看護の役割について講義を行う。</p> <p>(97 勝又由美/1回) 不妊治療をめぐる課題と看護について講義を行う。</p>	オムニバス方式

専門教育科目	専門科目	母性看護方法Ⅰ	<p>○ (オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 林ひろみ／7回)</p> <p>妊娠期のアセスメントと看護，妊娠期のアセスメントと看護，妊娠期の看護過程，新生児期のアセスメントと看護について看護計画立案の指導と，母性看護方法Ⅰのまとめを行う。</p> <p>(13 鈴木聡子／4回)</p> <p>分娩期のアセスメントと看護，分娩期の看護展開について看護計画立案の指導を行う。</p> <p>(24 吉見萌々／4回)</p> <p>産褥期のアセスメントと看護について看護計画立案の指導を行う。</p>	オムニバス方式
		母性看護方法Ⅱ	<p>○ (共同による演習（グループワーク，技術演習）／全15回)</p> <p>(5 林ひろみ，13 鈴木聡子，24 吉見萌々／15回) 共同</p> <p>グループワーク・看護技術についてグループを分担して指導を行う。</p>	共同
		小児看護学概論	<p>○ (オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 中村伸枝／11回)</p> <p>小児看護の特徴と理念，小児の成長発達原則，新生児・乳児・幼児の成長発達，学童・思春期に起こりやすい健康問題と看護，小児期の家族の特徴，子どもと家族を取り巻く社会と施策，子どもの入院環境・在宅療養環境等について講義を行う。</p> <p>(14 中水流彩／4回)</p> <p>学童・思春期の成長発達と生活，学校保健，症状を示す小児への看護について講義を行う。</p>	オムニバス方式

専門教育科目	専門科目	小児看護方法Ⅰ	<p>小児期の代表的な疾患及び診療を受ける小児について学ぶと共に、様々な健康課題をもつ小児と家族への看護を、10回の講義と5回の看護計画立案演習を通して学ぶ科目。1.小児期の代表的な疾患の症状・診断・治療方法及び診療を受ける小児について理解し説明できる。2.小児と家族に対する急性期、慢性期、終末期の看護について理解すると共に、それぞれの疾患や状況において、安全・安楽、倫理観や権利擁護、子どもの成長発達、家族支援の視点から看護を説明できる。3.在宅移行期支援、成人期移行期支援、緩和ケア等において、関連する保健医療制度や専門職連携の視点をもち看護の役割を説明できることを目標とし、授業を展開する。</p> <p>(オムニバス方式による講義と演習(看護計画立案演習)／全15回)</p> <p>(2 中村伸枝／9回) 急性期疾患、糖尿病等、疾患をもつ小児と家族への看護、手術を要する小児、ハイリスク新生児、障害を持つ小児と家族への看護、子どもにかかわる専門性の高い看護師についての講義、及び看護計画立案演習(肺炎)を行う</p> <p>(14 中水流彩／1回) 心疾患をもつ小児と家族への看護について講義を行う</p> <p>(23 荻野麻美, 2 中村伸枝／3回) 共同 小児がんをもつ小児と家族への看護についての講義及び2回の看護計画立案演習(小児がん, 気管支喘息)を行う</p> <p>(2 中村伸枝, 14 中水流彩／2回) 共同 2回(外鼠経ヘルニア, ネフローゼ症候群)の看護計画立案演習を行う</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義 20時間 演習 10時間
		小児看護方法Ⅱ	<p>小児看護に必要なとなる基礎的な技術について、視覚教材を用いた学習・講義や演習を通して学ぶ科目。1.小児の成長発達及び健康状態の査定及び日常生活支援に必要な技術を理解し、権利擁護に配慮して安全・安楽に実施できる。2.小児の事故及び救急蘇生の特徴と必要な技術を理解し、実施できる。3.診療を受ける小児の特徴と必要な介助技術を理解し、権利擁護に配慮して安全・安楽に実施する方法を説明できることを目標とし、授業を展開する。学生を2グループに分けて、2コマを1セットとし、技術演習と視覚教材を用いた学習・講義を交互に実施する。</p> <p>(共同による講義と演習(技術演習)／全15回)</p> <p>(2 中村伸枝, 14 中水流彩, 23 荻野麻美／15回) 共同 初回オリエンテーションを行う 学生を2グループに分けて、講義と技術演習を交互に分担して行う。</p>	共同 講義 16時間 演習 14時間
		精神保健看護学概論	<p>精神保健看護の基礎となる精神とこころの構造、こころの発達、現代社会における社会・家族・個人のこころの問題、精神医療・精神保健看護の歴史、精神保健福祉に関する法制度の動向、精神障がい者の回復、治療的関係について学ぶ、精神保健看護の基礎となる講義科目。1.現代社会におけるこころの健康とそれに及ぼす影響要因、こころの問題と予防対策について理解することができる。2.精神保健看護の変遷と現在の法制度の知識を身につけ、精神障がい者のリカバリーの重要性について説明することができる。3.精神保健看護の考え方について知識を理解し、説明することができる。以上を目標とし、授業を展開する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 小坂恵美／11回) 心の健康と精神保健看護、精神とこころの構造、心の発達、現代社会における精神の問題、個人と家族のこころの健康等について講義を行う。また、ゲストスピーカーとともに災害看護DPAD、こころの回復を目指して支えあう場、看護師のストレスマネジメント・メンタルヘルス、専門看護師の役割と実際について講義を行う。</p> <p>(7 小坂恵美・④ 館祥平／4回) 共同 ストレスコーピング、日常生活でできるストレス対処方法、精神保健看護の考え方等について講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

専門教育科目	専門科目	精神保健看護方法Ⅰ	○	<p>代表的な精神疾患及び精神科の診療を受ける対象の理解、急性期から回復に向けた対象と家族への看護について10回の講義と5回の看護計画立案演習を通して学ぶ科目である。目標は、1. 代表的な精神疾患の特徴・症状・検査・診断・治療方法について理解し説明できる。2. 精神科の診療を受ける対象とその家族について、精神（発達）・身体・社会の3側面から理解し説明できる。3. 精神看護において重要な患者の権利擁護と倫理観、安全・安楽な治療環境の提供について理解し説明できる。4. 急性期の看護について理解し説明できる。5. 在宅移行期・再発の予防の看護について理解し説明できる。6. 慢性期における身体及び精神の機能維持及び地域移行に向けた看護について理解し説明できる。7. 患者の回復に向けた精神保健医療の専門職やピアグループ、地域住民との連携における保健及び看護の役割について理解し説明できる。</p> <p>(オムニバス方式による講義と演習（看護過程展開演習）／全15回)</p> <p>(7 小坂恵美／7回) 精神保健看護の対象と看護、統合失調症、感情障害、不安障害、強迫性障害、摂食障害、依存症等の診断と治療、対象理解と治療環境について講義を行う。また、当事者のゲストスピーカーと共に当事者の語りから回復までの過程を理解する講義を行う。</p> <p>(7 小坂恵美, ④ 館祥平／8回) 共同 急性期、回復期、慢性期の看護の講義及び5回の看護過程展開演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部） 講義 20時間 演習 10時間
		精神保健看護方法Ⅱ	○	<p>精神保健看護に必要な基礎的な技術について、視覚教材を用いた学習・講義や演習を通して学ぶ科目である。学習目標は次の5点である。1. 精神保健看護のアセスメントに必要な技術を理解し、実施できる、2. 精神疾患患者の日常生活に必要な看護技術を理解し、実施できる、3. 精神看護に必要な患者との治療的コミュニケーションについて理解し、実施する。4. 患者の安全を守るために必要な技術を理解し、実施できる、5. ストレングスに焦点を当てた看護、認知行動療法の考えを取り入れた看護技術を理解し、実施できる。学生を2グループに分けて、2コマを1セットとし、視覚教材を用いた学習・講義と技術演習を交互に実施する。</p> <p>(共同による講義と演習（技術演習）／全15回)</p> <p>(7 小坂恵美, ④ 館祥平, 助手／15回) 共同 患者の状態と影響要因、安楽・安全を重視した治療環境、精神症状と精神機能のアセスメント、および看護技術に関する講義と技術演習において12回のグループを分担して行う。また、ストレスに焦点を当てた看護援助についての技術演習においてゲストスピーカーと共に3回のグループを分担して行う。</p>	共同 講義 18時間 演習 12時間
		地域・在宅看護学概論	○	<p>医療施設のみにとどまらず、地域で生活する多様な人々に必要とされる看護があることを理解し、看護師に求められる態度・知識・技能を身に付ける。1. 社会の変化と地域・在宅看護の意義を理解することができる。2. 人々が支えあって生きる「暮らし」「地域」について理解することができる。3. 地域・在宅看護が提供される様々な場を理解し、地域で暮らす人々への看護の役割を考えることができる、ことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式による講義と共同による演習（フィールドワーク・グループワーク）／全15回)</p> <p>(6 栗栖千幸／8回) 社会の変化と地域・在宅看護の意義、暮らしと人々の健康、暮らしの基盤としての地域、地域・在宅看護が提供される場、看護の役割等についての講義、及び地域で暮らし続けるために必要なことについてゲストスピーカーとの対談とグループワークを行う。</p> <p>(10 上原たみ子／3回) 学校のある地域の理解について講義を行う。</p> <p>(10 上原たみ子, 22 川上奈々／3回) 共同 学校のある地域における看護活動の場についてフィールドワークを指導する。</p> <p>(6 栗栖千幸・22 川上奈々／1回) 共同 地域で暮らす人々への看護の役割についてグループワークを指導する。</p>	オムニバス方式・共同（一部） 講義 20時間 演習 10時間

専門教育科目 専門科目	地域・在宅看護方法Ⅰ	○	<p>地域・在宅看護の対象者を理解し、地域で生活する在宅療養者と家族への支援に求められる看護の基本的知識と技術を習得する。1. 在宅で療養生活を送る人々の健康レベル・ライフステージなどからみる多様性を理解することができる。2. 在宅療養者を支える家族について理解し、家族を看護すること、その方法を理解することができる。3. 在宅療養を支える様々な制度について理解し、効果的な活用について考えることができる、ことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式の講義／全8回 共同による演習／全7回)</p> <p>(6 栗栖千幸／7回) 様々な在宅療養者の理解、訪問看護の機能、家族の理解と家族看護の意義、アドバンスケアプランニング意思決定支援、在宅療養者と家族を支える専門職連携等について講義を行う。</p> <p>(10 上原たみ子／1回) 地域・在宅看護を取り巻く社会状況と法・制度について講義を行う。</p> <p>(6 栗栖千幸, 22 川上奈々／3回) 共同 ロールプレイによって家族の在り方を考えるグループワークを指導する。</p> <p>(10 上原たみ子, 22 川上奈々／4回) 共同 在宅療養者を支える様々な制度についての講義と、事例を通じた効果的な社会資源の活用、在宅看護の意義と役割に関するグループワークを指導する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部) 講義 18時間 演習 12時間
	地域・在宅看護方法Ⅱ	○	<p>地域・在宅看護の対象者に実施されている医療・看護技術を体験し、地域で生活する在宅療養者と家族への支援に求められる看護の基本的知識と技術を習得する。1. 在宅療養者に実施される医療処置の必要な在宅療養者の看護を述べられる。2. 在宅療養者に実施される医療・看護技術を体験する。3. 在宅療養者・家族への専門職の支援について討議できる、ことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式による講義／全7回 共同による演習／8回)</p> <p>(6 栗栖千幸／3回) 地域・在宅の事故への対応、栄養摂取困難、排泄機能障害のある療養者と家族への在宅看護について講義を行う。</p> <p>(10 上原たみ子／2回) 認知機能障害等のある療養者と家族、障害のある小児の療養者と家族への在宅看護について講義を行う。</p> <p>(22 川上奈々／2回) 神経難病及び精神障害のある療養者と家族への在宅看護について講義を行う。</p> <p>(6 栗栖千幸, 10 上原たみ子, 22 川上奈々／8回) 共同 事例を用いた演習、訪問看護疑似体験、グループワークの指導を行う。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部) 講義 14時間 演習 16時間
	公衆衛生看護学概論	○	<p>家庭や集団・組織を含む地域を基盤にした看護活動の考え方、公的ヘルスケアサービスの中で機能する看護のあり方を教授する。また、地域看護学の対象と領域の構成、特に地域看護学における公衆衛生看護領域の位置づけを解説し、家庭や集団・組織を含む地域を基盤にした看護実践の基本的な考え方を伝える。1. 地域看護で目指すこととその対象について説明できる。2. 公衆衛生看護の定義、保健師とは、保健師の活動指針について説明できる。3. 公衆衛生看護活動の目標、方法および技術、展開過程について説明できる、ことを目標とする</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 宮崎美砂子／5回) 公衆衛生看護活動の目的、対象、方法についての考え方、保健師活動の歴史と公衆衛生看護の役割・機能、地区活動、まちづくりと保健師活動について講義を行う。</p> <p>(12 岩瀬靖子／4回) 健康相談・健康診査、健康教育、ケアチーム作り・地域ケア体制づくりについて講義を行う。</p> <p>(20 井口紗織／4回) 保健指導、住民グループ支援について講義を行う。</p> <p>(12 岩瀬靖子・20 井口紗織／2回) 共同 家庭訪問について講義を行う。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

専門教育科目 専門科目	公衆衛生看護方法論Ⅰ (行政看護)	○	<p>公衆衛生看護の主要な活動領域の一つである、行政分野の保健師の活動方法について学ぶ。市町村の保健センターや都道府県の保健所など公的保健福祉機関・施設に所属して受け持ち地区住民全体に責任をもつ立場で、公的保健福祉サービスとして看護を提供する方法について解説する。1. 公的保健福祉サービスとして機能する保健師の活動の基盤となる法律や施策、ヘルスケアシステムについて説明できる。2. ライフサイクル及び主要な健康問題別に保健師が果たす役割について、基本となる考え方と活動方法を説明できる。3. 市町村の保健師と保健所の保健師のそれぞれの立場から責任をもつ役割と機能の特徴について説明できる、ことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 宮崎美砂子/5回) 地域保健法体制下の保健活動、感染症の動向と保健所・市町村の保健師の役割、結核の予防と管理における保健師の役割、災害時の保健師活動等について講義を行う。</p> <p>(12 岩瀬靖子/6回) 母子保健福祉の動向、成人保険の動向、成人期の生活と保健指導の実際、健康教育、難病保健福祉対策と保健師活動、精神保健福祉対策と保健師活動等について講義を行う。</p> <p>(20 井口紗織/4回) 高齢者保健福祉対策と保健師活動、障害児者保健福祉対策と保健師活動等について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	公衆衛生看護方法論Ⅱ (学校看護)		<p>公衆衛生看護の活動領域の一つである学校看護の活動方法について学ぶ。教育機関に所属して養護教諭として、学校保健の体制下で、児童生徒及び教職員の健康管理に責任をもつ立場で看護を提供する方法について解説する。1. 学校保健活動の組織体制や法的根拠について説明できる、2. 学校保健活動における養護教諭の活動と職務について説明できる、3. 学齢期にある子どもの健康課題とその支援について説明できる、ことを目標とし、8回の講義を行う。</p>	
	公衆衛生看護方法論Ⅲ (産業看護)		<p>公衆衛生看護の活動領域の一つである、産業看護の活動方法について学ぶ。企業の健康管理部門や健康保険組合に所属し、産業保健の体制下で、労働者の健康管理に責任をもつ立場で看護を提供する産業保健看護の方法について解説する。1. 産業保健看護活動の理念と背景、法的根拠について説明できる、2. 産業保健看護活動における保健師の役割と職務について説明できる、3. 産業保健における健康課題とその支援について説明できる、ことを目標とし、8回の講義を行う。</p>	
	公衆衛生看護学演習	○	<p>これまでの公衆衛生看護学関連科目(公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護方法論、社会資源とマネジメント、地区活動論)の学習内容を基盤に、家庭訪問における支援技術、保健指導技術、小集団を対象とした健康教育技術、社会資源の活用・開発・管理における展開技術について、模擬事例を用いて実践的に学習する。本演習を通じて、コミュニティを構成する人々全体の健康の増進及び改善を目指す公衆衛生看護における看護実践能力が修得できるよう学びを促進する。</p> <p>(共同による演習/全30回)</p> <p>(1 宮崎美砂子・12 岩瀬靖子・20 井口紗織/30回) 共同 模擬事例を用いた技術演習においてグループを分担して指導する。</p>	共同
	公衆衛生看護管理論	○	<p>公衆衛生看護活動を組織的な視野をもって効果的かつ効率的に運用するために必要な公衆衛生看護管理の考え方及び機能について学ぶ。事例を通して公衆衛生看護管理を効果的かつ効率的に用いるための実践的知識及び必要な能力について理解を深める。1. 公衆衛生看護における看護管理の考え方について理解できる2. 公衆衛生看護における看護管理機能について説明できる3. 公衆衛生看護における看護管理機能を発揮するために求められる能力について考察できることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式による講義/全5回, 共同による演習(事例検討・討議)/全3回)</p> <p>(1 宮崎美砂子/3回) 公衆衛生看護における看護管理の考え方組織運営管理予算・予算執行管理、公衆衛生看護において求められる能力と管理機能等について講義を行う。</p> <p>(12 岩瀬靖子/2回) 事例管理、地区管理、事業・業務管理、情報管理等について講義を行う。</p> <p>(1 宮崎美砂子, 12 岩瀬靖子, 20 井口紗織/3回) 共同 事例検討及びこれからの公衆衛生看護に求められる看護管理機能についての討論で、グループを分担して指導を行う。</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)

専 門 教 育 科 目	専 門 科 目	地区活動論	○	<p>公衆衛生看護活動の中核となる方法論である、地区活動について実践的に学習する。地域（コミュニティ）を構成する人々を生活集団として捉え、生活集団の健康問題をアセスメントし、解決・改善策を計画立案・評価するための地区活動の展開過程技術を、模擬事例を用いて学ぶ。</p> <p>（演習（地区診断と地区活動の事例展開）／全15回）</p> <p>（1 宮崎美砂子, 12 岩瀬靖子, 20 井口紗織／15回）共同 模擬事例の検討で、グループを分担して指導を行う。</p>	共同
		健康教育論	○	<p>健康の回復・維持・増進及び健康障害の予防を目的に、個人、グループ及び集団を対象に展開する健康教育の理論及び企画・実施・評価の方法について学習する。1. 健康教育の理論を理解する。2. 対象のセルフケア能力育成のための健康教育のプロセスがわかる。3. 小集団の特性に応じた健康教育の企画・立案、評価の方法がわかる、ことを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全4回、演習（課題ワーク）／全4回）</p> <p>（1 宮崎美砂子／3回） 健康教育の歴史と概念、理論、実践、及び小集団のセルフケア能力育成のための健康教育理論と実践に関する講義を行う。</p> <p>（12 岩瀬靖子／1回） 対象のセルフケア能力の捉え方について講義を行う。</p> <p>（1 宮崎美砂子, 12 岩瀬靖子, 20 井口紗織／4回）共同 研究計画の企画立案について課題ワークの進行、発表と討議を分担して指導する。</p>	オムニバス方式・ 共同（一部） 講義 8時間 演習 8時間
		地域共創ケアⅢ	○	<p>地域共創ケアⅠ及び地域共創ケアⅡの学習を踏まえ、人々の健康をまもるために地域において様々な人々との連携協働を通して取組むべきヘルスケアニーズを検討し、対応への取組計画を立案することから、地域共創ケアに関わる実践的知識・技術を学ぶ。演習地域を設定し、学生5～6名がグループとなり、情報収集、ヘルスケアニーズの分析、課題の設定、地域内の専門職及び非専門職の支援提供者との連携を踏まえた取組計画を立案する。立案した計画に対して、その実現性を検討するために、地域の専門職や非専門職の支援提供者を交えた意見交換の場を企画運営する。これにより、地域の様々な人々との連携協働により必要な支援を共に創造する過程と看護が果たす役割について具体的に学ぶ。</p> <p>（共同による演習／全15回）</p> <p>（12 岩瀬靖子, 10 上原たみ子, 21 松戸麻華, 22 川上奈々, 13 鈴木聡子, 23 荻野麻美, 16 姫野雄太／15回）共同 グループワークの説明、進行、意見交換、まとめを分担して行う。</p>	共同
		看護学セミナー	○	<p>1年次に履修したエレメンタリーセミナーに連動する科目である。本科目は、看護職としてのキャリアを長期的な視野で考え、専門職としての自己成長を支える学ぶ力について理解し、自己のキャリアや学修に対して展望をもつことを目指す。現職看護職等を招聘してのセミナー、看護の社会的な動向に関する文献抄録等を通して、テーマ設定によるグループ討議の機会を設ける。学んだことは、ポートフォリオに記入しながら振り返り、学生自身が看護への志向性や価値づけ、自己成長に向かう学びの変遷を確認する。</p> <p>（オムニバス方式 講義／全4回、演習（グループ討議）／全11回）</p> <p>（2 中村伸枝・② 小西美ゆき, 13 鈴木聡子／3回）共同 オリエンテーション、看護師としてのキャリア形成と専門職としての発達についての講義、多様なキャリアの看護職の活動紹介後の中間まとめ、及び最終まとめの進行を行う。</p> <p>（100 中山登志子／1回） 看護師としてのキャリア形成と専門職としての発達に関する国内外の動向と展望について講義を行う。</p> <p>（13 鈴木聡子／1回） 多様なキャリアの看護職の活動紹介としてJAICAと、国の省庁で役割発揮しているゲストスピーカーの活動を紹介する。</p> <p>（2 中村伸枝／2回） 多様なキャリアの看護職の活動紹介として専門看護師等、異業種や起業看護師として役割発揮している活動をゲストスピーカーとともに紹介する。</p> <p>（2 中村伸枝, ② 小西美ゆき, 13 鈴木聡子, ③ 永田亜希子, 18 阿部由喜湖, ① 浅野美知恵, 6 栗栖千幸, 10 上原たみ子, 5 林ひろみ, 14 中水流彩, 8 田所良之, 19 石井優香, 7 小坂恵美, ④ 館祥平, 4 北池正, 16 姫野雄太, 1 宮崎美砂子, 12 岩瀬靖子, 100 中山登志子／8回）共同 看護職のキャリア、及び看護職の社会的な動向に関する文献を用いたグループ討議、自己のキャリアの長期的展望と学習課題に関するグループワークを分担して指導する。</p>	オムニバス方式・ 共同（一部） 講義 8時間 演習 22時間

専門 教育 科目	専門 科目 目	看護管理・看護政策論	<p>看護管理のプロセスおよびマネジメントの実際について学習する。マネジメントや医療・看護の質を高めるための理論や方法などを学ぶ。さらに、より良い看護を提供するための看護の政策についても理解を深める。1. 看護管理のプロセス、チームや組織における人や物、コストのマネジメントについて説明できる。2. 医療や看護の質を高める理論や方法について説明できる。3. 看護の政策について説明できることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式による講義／全7回と演習(グループワーク)／1回)</p> <p>(6 栗栖千幸／7回) チームや組織における人のマネジメント、物やコストのマネジメント、医療や看護の質(アウトカムマネジメント)、看護の政策と看護管理について講義を行う。また、最終回のグループワークを指導する。</p> <p>(101 初村恵／1回) 看護政策の成り立ちと役割について講義を行う。</p>	オムニバス方式 講義 14時間 演習 2時間
		災害看護学概論	<p>災害という健康危機発生に対する基本的知識を基盤に、被災者及び被災地域の健康支援に対して、発災の急性期から、慢性期、復旧復興期、平時のそれぞれの時期に必要とされる看護活動の基本となる考え方を伝える。1. 災害の定義、災害による健康生活への影響、災害対応に関わる人材・組織・制度や仕組みについて理解できる。2. 災害看護の目的・対象、災害サイクル各期における看護活動の特徴について理解できる。3. 被災者の特性に応じた健康課題と看護活動について理解できる、ことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(1 宮崎美砂子／2回) 災害の定義、災害による健康と生活への影響、災害看護の目的・対象・災害サイクル各期における看護活動の特徴について講義を行う。</p> <p>(12 岩瀬靖子／1回) 避難所における健康課題と災害時看護活動について講義を行う。</p> <p>(102 柳澤修平／1回) 多数傷病者の受け入れにおける医療機関の災害時看護活動、トリアージについて講義を行う。</p> <p>(13 鈴木聡子／1回) 子どもと妊産婦の特性に応じた看護活動について講義を行う。</p> <p>(20 井口紗織／1回) 高齢者・慢性疾患患者等の特性に応じた看護活動について講義を行う。</p> <p>(12 岩瀬靖子, 20 井口紗織／1回) 共同 災害時における倫理、支援者に対する看護について講義を行う。</p> <p>(1 宮崎美砂子, 13 鈴木聡子／1回) 共同 災害時における地域連携、国際協力について講義を行う。</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)
		災害看護学演習	<p>災害という健康危機発生時に人々の健康生活に及ぼす影響を理解し、地域における健康危機管理に対する看護専門職の責務と活動方法についてシミュレーション演習事例を用いて具体的に学ぶ。事例1は避難所運営ゲームを用いた避難所での看護活動、事例2は多数傷病者対応における病院での看護活動である。学生はグループに分かれ、各事例において、被災住民役割、看護師等支援者役割、観察者役割をそれぞれ担い体験する。演習を通して看護専門職の役割、平時からの備えについて多角的に考察する。</p> <p>(共同による演習／全15回)</p> <p>(1 宮崎美砂子, 12 岩瀬靖子, 20 井口紗織, 13 鈴木聡子／8回) 共同 避難所での看護活動についてシミュレーション演習事例を用いて役割分担して指導する。</p> <p>(1 宮崎美砂子, 12 岩瀬靖子, 20 井口紗織, 13 鈴木聡子, 102 柳澤修平／7回) 共同 多数傷病者の受け入れにおける病院での災害時看護活動についてシミュレーション演習事例を用いて役割分担して指導する。</p>	共同

専 門 教 育 科 目	専 門 科 目	グローバルヘルス 看護学Ⅰ	○	<p>グローバルヘルスにかかわる概念や課題を理解するために必要な内容を概説する。保健看護の専門職者に必要な人々の多様な文化や価値観とグローバルヘルス看護のあり方、国際看護について講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(7 小坂恵美／7回)</p> <p>グローバルヘルスの概念と課題、世界の保健医療システムと健康課題、異文化・ジェンダーの理解と看護、在日外国人・訪日外国人への医療と看護、グローバルヘルス看護の取組と課題について講義を行う。また、ゲストスピーカーを迎え、感染症と看護、国際協力と海外での看護活動について講義を行う。</p> <p>(13 鈴木聡子／1回)</p> <p>母子保健と看護について講義を行う。</p>	オムニバス方式
		グローバルヘルス 看護学Ⅱ		<p>グローバルヘルス看護Ⅰで学修した多文化の生活や価値観を基に、年々増加傾向にある在日・在留・訪日外国人を対象とした文化や生活様式、価値観についてフィールドワーク等を通して理解し、グローバルヘルス看護の観点から対象の生活と健康上の課題、保健医療福祉サービスの提供について学ぶ。</p> <p>(講義／全4回、演習(グループワーク等)／全11回)</p>	講義 8時間 演習 22時間
		看護学研究Ⅰ	○	<p>実践の科学である看護学において、看護実践の質向上や看護学の発展のために行う研究について、その意義や研究疑問の明確化から研究知見の公表までのプロセスを学ぶと共に、適切な研究方法を選択できるよう、事例研究、文献研究、実践報告、質的研究、量的研究について学修する。また、研究の全てのプロセスにおいて求められる倫理的配慮について学ぶ。看護学研究Ⅱ及びⅢ(卒業研究)の基礎となる科目。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(2 中村伸枝／6回)</p> <p>看護実践と研究のつながり、看護学研究のプロセス、看護学研究の方法(事例研究、文献研究)について6回の講義を行う。</p> <p>(19 石井優香／1回)</p> <p>質的研究について講義を行う。</p> <p>(16 姫野雄太／1回)</p> <p>量的研究について講義を行う。</p>	オムニバス方式
		看護学研究Ⅱ	○	<p>1. 文献検討の意義及び活用方法について理解し、文献検索を行うことができる。2. 自らの関心領域において研究疑問を明確化し研究計画の素案を作成できることを目的とし、文献検討の意義と検索方法、引用方法及び文献検討の実際について学び、自らの関心に基づき、文献検索を行う2回の講義を行う。また、各領域で行う卒業研究について2回の講義を通して理解したうえで、自らの関心領域において4回的小グループによる指導を継続的に受けながら研究計画の素案づくりに取り組む。</p> <p>(オムニバス方式 講義／全4回、共同による演習／全4回)</p> <p>(2 中村伸枝／2回)</p> <p>文献検討の意義と検索・引用方法について2回の講義を行う。</p> <p>(③ 永田亜希子, ① 浅野美知恵, 6 栗栖千幸, 1 宮崎美砂子, 4 北池正／1回) 共同</p> <p>各領域における卒業研究を説明する。</p> <p>(5 林ひろみ, 2 中村伸枝, 8 田所良之, 7 小坂恵美／1回) 共同</p> <p>各領域における卒業研究を説明する。</p> <p>(③ 永田亜希子, 18 阿部由喜湖, ① 浅野美知恵, ② 小西美ゆき, 21 松戸麻華, 17 松尾尚美, 6 栗栖千幸, 10 上原たみ子, 5 林ひろみ, 13 鈴木聡子, 2 中村伸枝, 14 中水流彩, 8 田所良之, 19 石井優香, 7 小坂恵美, ④ 館祥平, 4 北池正, 16 姫野雄太, 1 宮崎美砂子, 12 岩瀬靖子, 20 井口紗織／4回) 共同</p> <p>学生の関心領域において4回的小グループによる指導を継続的にを行い、研究計画の素案づくりを指導する。</p>	オムニバス方式・ 共同(一部) 講義 8時間 演習 8時間

専門教育科目	専門科目	看護学研究Ⅲ (卒業研究)	○	<p>1. 看護実践における課題について研究目的を明確にし、適切な研究方法を用いて調査の実施および分析を行い、考察することができる。</p> <p>2. 研究の成果を論文にまとめ、発表することができる。3. 研究の全てのプロセスにおいて、必要な倫理的配慮ができる。ことを目的とし、看護実践における課題について、自らの研究疑問にもとづき研究計画を立案し、調査の実施、分析、考察、卒業論文の執筆、学内での成果発表会で報告するという、一連の研究プロセスを実施することを通して、看護実践における課題に科学的に取り組むことを学ぶ。</p> <p>(③ 永田亜希子, 18 阿部由喜湖, ① 浅野美知恵, ② 小西美ゆき, 21 松戸麻華, 17 松尾尚美, 6 栗栖千幸, 10 上原たみ子, 5 林ひろみ, 13 鈴木聡子, 2 中村伸枝, 14 中水流彩, 8 田所良之, 19 石井優香, 7 小坂恵美, ④ 館祥平, 4 北池正, 16 姫野雄太, 1 宮崎美砂子, 12 岩瀬靖子, 20 井口紗織/15回) 共同</p> <p>学生に関心領域において継続的に個別指導を行い、卒業研究の作成を指導する。</p>	共同
		基礎看護学実習Ⅰ	○	<p>入院患者を受け持ち、健康状態をアセスメントし、日常生活援助の必要性を判断し、日常生活援助を行う。また、病院の機能や役割、健康障害のある対象者や日常生活の支援が必要な対象者の療養生活、看護活動の実際を学び、求められる多様な看護の役割について考える。</p> <p>1. 受け持ち患者の健康状態をアセスメントし、日常生活援助の必要性を判断し、患者の安全・安楽・自立を守り、日常生活援助を実践することができる。2. 実践した援助が患者に及ぼした影響について考え、援助の評価ができる。3. 看護専門職を目指す看護学生として適切な態度および行動をとることができる、ことを目標とし、学内実習1日、臨地実習4日を行う。</p> <p>(③ 永田亜希子, 18 阿部由喜湖, 25 中條華子, ② 小西美ゆき, 17 松尾尚美, 助手3名) 共同</p>	共同
		基礎看護学実習Ⅱ	○	<p>基礎看護学実習Ⅰから発展して、受け持ち患者を全人的に理解し、その方よりよい健康状態を目指して関わる実習である。一人の患者を受け持ち、観察した事実をもとに看護の視点に沿って全体像を描き、対象特性を把握して看護の方向性を定め、個別な反応に沿って看護を実践する。受け持ち患者の反応に自分流の判断を下すことを避け、その人の位置からその人のあたまのなかを絶えず思い描きながら関わる。また、患者を中心とした医療の協働について学ぶ。1. 患者を尊重して関わりながら、療養生活を送る患者の全体像を描き、看護援助の必要性を判断することができる。2. 受け持ち患者の看護援助の必要性とこれまでに学習した看護技術の目的、原理原則をふまえ、患者に合わせた援助を考え、実施・評価できる。3. 患者を中心とした医療の協働について知り、看護の役割について考えを持つことができる、ことを目標とし、学内実習2日、午前臨地実習/午後学内実習3日、臨地実習5日を実施する。</p> <p>(③ 永田亜希子, 18 阿部由喜湖, 25 中條華子, 16 姫野雄太, 21 松戸麻華, 助手3名) 共同</p>	共同
		地域共創ケアⅠ	○	<p>地域で暮らす多様な年代、生活背景をもつ人々と交流する体験を通して、看護が様々な発達段階及び健康レベルにかかわること、生活や環境が健康の土台となっていることを実際に学ぶ。保育所、高齢者の通いの場等の実習先を数名の学生がグループとなり、訪問して、コミュニケーションをとり、交流することにより学ぶ。なお本科目は地域共創ケアⅠ～Ⅲの第1段階に位置づく科目である。これらの科目の系統的な履修を通して、様々な人々や専門職と共に創るケア(地域共創ケア)について1年次から3年次にかけて系統的に学ぶ。</p> <p>(2 中村伸枝, 8 田所良之, 5 林ひろみ, 10 上原たみ子) 共同</p>	共同
		地域共創ケアⅡ	○	<p>健康支援にかかわる専門職、非専門職を訪問し、その活動の目的、取組みの実際、課題を知ることから、人々の健康を支援するそれぞれの支援者の役割を学ぶ。数名がグループとなり、医療機関併設の地域医療連携室やがん相談支援センター等の患者相談室、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、診療所、患者会、認知症カフェ、障害者等の福祉作業所、介護老人保健施設等の中から1か所を訪問し、各施設の活動に参加すると共に、支援提供者に聞き取りを行い、実際に学ぶ。</p> <p>(7 小坂恵美, 4 北池正, 10 上原たみ子, 14 中水流彩) 共同</p>	共同
		地域・在宅看護学実習	○	<p>地域・在宅看護学の対象となる慢性的な健康問題をもち在宅で生活するあらゆる年齢層の療養者およびその家族と意思疎通をはかり、思いを受け止め、生活を支援する保健・医療・福祉サービスにおける連携の実態と看護師の役割を理解する。加えて、在宅にて医療的ケアが必要な療養者・家族を支援する看護実践にもとめられる知識と技術の修得をはかる。</p> <p>(6 栗栖千幸, 10 上原たみ子, 22 川上奈々) 共同</p>	共同

専門教育科目 専門科目	成人急性期看護学実習	○	<p>急激に健康状態が変化した状況、および重篤な身体的問題を生じている状況における看護の実際を学ぶ。これらの状況には、手術を受ける患者の看護、侵襲的検査・治療を受ける患者の看護などを含み、周術期の身体侵襲と回復過程、侵襲的検査・治療の危険防止および安全確保を理解し、看護の一連の過程を実践する。さらに、専門職として人々の生命と人権を尊重する態度およびチームの一員として責任ある行動を学ぶ。</p> <p>(① 浅野美知恵, ② 小西美ゆき, 17 松尾尚美, 21 松戸麻華) 共同</p>	共同
	成人慢性期看護学実習	○	<p>慢性疾患の治療または薬物療法などの内科的治療を受ける患者、もしくは身体障害をもつ患者を受け持ち、看護に必要な知識、技術、態度を用いて、患者のアセスメント、看護計画立案、看護実践、評価を行う。1. 慢性疾患の治療または内科的治療を受ける患者、もしくは身体障害をもつ患者の身体・心理・社会的状態の情報収集とアセスメントができ、看護問題の明確化、看護計画の立案と評価ができる。2. 受け持ち患者の看護計画に基づく行動計画を立て、適切な技術を用いて援助を実施できる。3. 患者・家族に対して誠実かつ適切な態度で接し、看護職員との情報共有を確実に行うとともに、実習グループ内のメンバーとして連携が取れる。ことを目標とする。</p> <p>(① 浅野美知恵, ② 小西美ゆき, 17 松尾尚美, 21 松戸麻華) 共同</p>	共同
	老年看護学実習	○	<p>本実習では、以下を目的として2週間にわたる高齢者施設での実習を行う。すなわち、1. 健康上ならびに生活上の支援を要する高齢者への看護実践を通して、老年期にある人々への看護のあり方を理解する。2. 高齢者の特徴をふまえた看護を計画・実施・評価する基礎的能力を養い、適切なアセスメントと看護の方法を修得することができる。3. 高齢者とその家族への支援における保健・医療・福祉の多職種連携、ならびに、看護の役割・機能と専門性について理解を深める。</p> <p>(8 田所良之, 19 石井優香, 助手) 共同</p>	共同
	母性看護学実習	○	<p>周産期にある母子とその家族の特徴に応じた基本的な看護実践能力を体得することを目的とする。病棟に入院中の母子一組の受け持ちを通して、対象の特徴を踏まえた看護展開を体験を通して学ぶ。また、産科外来における妊婦・褥婦へのケアの実際について見学を通して学ぶ。これらの学びを通して、母性看護学における対象者の特徴と看護の役割について考察する。</p> <p>(5 林ひろみ, 13 鈴木聡子, 24 吉見萌々) 共同 林は産科外来を担当し、鈴木と吉見は受け持ち実習を担当する</p>	共同
	小児看護学実習	○	<p>小児看護学実習は、健康課題のある小児とその家族に対し、豊かな人間性と小児看護の専門的知識・技術を用いて根拠にもとづき看護を実践する能力を、実習を通して養う。1. 小児とその家族を理解し信頼関係を築くことができる。2. 根拠にもとづき小児とその家族に必要な看護を判断し、看護基本技術や援助的対人技術をいかして小児とその家族に必要な看護を実践することができる。3. 看護学生としての役割・責務を自覚し、看護職仲間及び他職種との連携・協働の意義・必要性を考えると共に、実践した看護を振り返り自己の課題と解決に向けた方策を明確にすることができる、ことを目標とする。1日目及び10日目は1クール全員で学内実習を行う。2～9日目は、1クールを2グループに分け、受け持ち看護実習4日間と、保育園実習・障害児看護実習各1日と学内実習2日を交互に実施する。</p> <p>(2 中村伸枝・14 中水流彩・23 荻野麻美) 共同 中村は学内実習を担当し、臨地実習指導は中水流と荻野が担当</p>	共同
	精神保健看護学実習	○	<p>精神保健看護学実習は、精神保健看護学概論・精神保健看護学方法Ⅰ・精神保健看護学方法Ⅱで学習した内容を統合し、精神の症状や障がいにより日常生活に支障をきたしている人やその家族との治療的関係を築きながら、専門知識・技術を用いて根拠にもとづいた看護の展開を実践する能力を養う。そして、精神障がいのある方が、その人らしく地域で生活するための医療・福祉などのリソースの実際を知り、体験を通して精神保健看護の役割と課題を考える。精神科病棟実習5日間、デイケア実習1日間、就労継続支援事業所1日、訪問看護実習1日、学内実習2日間を実施する。</p> <p>(7 小坂恵美, ④ 館祥平, 助手) 共同</p>	共同
	公衆衛生看護学実習	○	<p>市町村保健センター、保健所といった自治体の公的機関がもつ機能・役割を踏まえ、それらの機能・役割を活かして、地域で暮らす様々な健康状態にある人の健康生活を支援する公衆衛生看護の実践能力を実地に養う。援助の対象者となる人や家族、所属する組織や集団への理解、居住地域の価値観や慣習等に対する理解を基に、創造的に問題解決に取り組み、援助対象者を含む、地域の人々の力量を生かすことができる援助能力を培う。</p> <p>(1 宮崎美砂子, 12 岩瀬靖子, 20 井口紗織) 共同</p>	共同

専門教育科目	専門科目	公衆衛生看護展開実習	○	<p>学校および産業における公衆衛生看護活動の実際を学び、地域生活集団を単位とした看護の対象（個人、家族、集団、コミュニティ）の健康の回復および維持・向上に向けて、それぞれの機関における看護専門職が果たす機能と役割を理解し、自ら実践するための看護実践能力を身につける。</p> <p>（1 宮崎美砂子，12 岩瀬靖子，20 井口紗織）共同</p>	共同
		公衆衛生看護管理実習	○	<p>地域を単位とした、健康の増進と改善を図るために必要な公衆衛生看護について管理的な実践能力を実施に養う。公衆衛生看護の関連科目でこれまで学んできた知識、技術、態度を統合し、当該地域における地域アセスメント、ヘルスニーズの分析、地区活動計画の立案・実施・評価を、管理的な視点から、効果的かつ効率的に実施する能力を養う。実習地はひとつの保健所が管轄する複数の市町村である。学生が数名単位で各市町村に分かれて実習しながら各市町村の特性に基づき公衆衛生看護管理を学ぶと共に、複数の市町村を管轄する保健所の公衆衛生看護管理の実践について学ぶ。</p> <p>（1 宮崎美砂子，12 岩瀬靖子，20 井口紗織）共同</p>	共同
		統合看護実習	○	<p>領域別実習での学修をふまえ、看護が提供されるそれぞれの対象・場での実習を通して、豊かな人間性と専門的知識・技術を用いて根拠にもとづき看護を実践する能力を高めると共に、多様な体験を通して、看護の継続性や管理的視点、チームアプローチの実践などを学び、応用、発展的に看護を実践する。基礎看護学、成人看護学、地域・在宅看護学、母性看護学、小児看護学、老年看護学、精神保健看護学の各領域において、看護が提供される対象・場に合わせて、3週間の実習を行う。</p> <p>③ 永田亜希子，18 阿部由喜湖，25 中條華子，① 浅野美知恵，② 小西美ゆき，21 松戸麻華，17 松尾尚美，6 栗栖千幸，10 上原たみ子，22 川上奈々，5 林ひろみ，13 鈴木聡子，24 吉見萌々，2 中村伸枝，14 中水流彩，23 荻野麻美，8 田所良之，19 石井優香，小坂恵美，④ 館祥平）共同</p>	共同

学校法人植草学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
植草学園大学				植草学園大学				
発達教育学部				発達教育学部				
発達支援教育学科	140	—	560	発達支援教育学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>	定員変更(△40)
保健医療学部				保健医療学部				
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	40	—	160	理学療法学専攻	40	—	160	
作業療法学専攻	40	—	160	作業療法学専攻	40	—	160	
				看護学部				学部の設置(認可申請)
				看護学科				
計				計				
	220	—	880		<u>260</u>	—	<u>1040</u>	
植草学園短期大学				植草学園短期大学				(廃止)
こども未来学科				こども未来学科				令和5年4月学生募集停止
こども未来学科	0	—	0	こども未来学科	<u>0</u>	—	<u>0</u>	
計				計				
	0	—	0		<u>0</u>	—	<u>0</u>	